

林 柏 生

宣 傳 部 長

廣東の生れで本年四十二歳、廣東のミツシヨンスクール嶺南大學卒業後、モスクワの中山大學を卒業した。

早くから新聞界に投じたが、その敏捷筆のごとき行動と、理論整然として迫力ある文章とは、正に天稟の新聞人である。

舊中華日報編輯長時代から反蔣筆陣を張り、昭和十四年香港の南華日報を舞臺に重慶攻撃の鋭鋒痛烈を極め、ために香港一帯の華僑並にその他中國人をして反蔣に向はしめるところがあつたので、重慶では彼を生かしておいては抗戦力を鈍らす惧れありとし、ひそかにテロ團を香港に派遣し、不意を襲つて重傷を負はしたのであつた。

けれども、堅い信念に基く彼の反蔣主義は微動だもしないばかりか、これを契機としてます

く猛烈となつた。

負傷全癒するや、上海において發行する汪派の機關紙中華日報に再び堂々の論陣を張るにいたつた。

論旨は犀利にして深遠であつても、その文章は平易明快にして誰でもよく理解できるので、讀者の數は日を追うて増加し、ある新聞店のごときは毎日五百部づゝの増紙を申入れたといはれてゐる。

上海には、華文及び歐文の抗日、反汪主義の新聞が澤山あつたが、林柏生一人の陣營に及ばずいつも彼の論文に壓倒された。由來中國は文章を尙ぶ國であり、殊に新聞の論調には最も關心を持つてゐるので、彼の論文は大いに歓迎され、従つて購讀者數も幾何級數的に増加し、こんにちでは上海における最大の發行部數を持つやうになつた。同時に、それだけ和平救國運動の共鳴者と支持者を得たことになる。

重慶政府は、その勢力圏内にある地域には、必ず一縣に對し一新聞を發行し、民心の離反を防

いでゐるといふことだが、何れにしても、文字を尊ぶ中國においては、新聞の宣傳力といふものは偉大な力を持つてゐる。

新政府の成立と同時に、彼はその宣傳力の強さと巧妙さを認められて宣傳部長にあげられた。これは日本でいへば情報局總裁のやうなものであるが、資格は大臣である。

大いに春秋に富む彼の將來こそ、刮目に値する。

徐

良

駐日大使

光緒十八年（明治二十五年）廣東省三水縣に生る。ことし（昭和十七年）五十一歳である。

少年時代は、外交官の父に従つて日本に在住し、八歳から十二三歳まで神戸に送り、小學教育は日本小學校で受けた。だから日本は彼の第二の故郷であり、従つて彼の後天的資性は日本において育成されたのである。

その後、ロンドンの中學校、コロンビア大學、ワシントン大學に學び、つぶさに歐米各國の風習に接し、英語も自由自在に操るやうになつて歸國した。日本でも同じことだが「あちら」に留學したり、あるひは僅かの間でも漫遊などとすると、すぐ歐米かぶれになつて、その言語動作にいたるまで歐米のそれを模倣するやうになるが、彼は、かうしたことが大の嫌ひである。いつぞや彼の令息が英語で書いた手紙を送つてきたことがあるが、彼はこれをたしなめるため、開封もせず、そのまま突返して令息の反省を求めた。

「東洋人はあくまで東洋の思想に生き、東洋の生活をなすべきである」といふのが彼の信條である。彼はこの信念によつて興亞の大事業に當つてゐる。以てその抱負經綸を知るべきだ。

歐米から歸國した彼は、舊民國政府の司法部、外交部、駐米公使館、廣東省長公署、直魯豫巡閱使署、總統府などに勤務し、二三年前まで天津中原公司の經理をやつてゐた。

ところが、汪兆銘を主席とする新中華民國政府樹立の運動が擡頭し、和平救國を施政の根本方針となすといふことを聞くや、全く自己平素の抱負と一致するものとし、蔭ながらこれを悦んで

わた。そこへ汪兆銘から新政府成立運動に参加されたいといふ要請があつたので、彼は勇躍これに参畫し、いろいろの困難な部署を擔任して、挺身新政府樹立の促進に努力した。

いよく新政府が成立するに及び、彼は外交部長褚民誼のもとに外交次長となり、褚部長を補佐して大いに新政府の外交確立に努めた。その後、褚民誼氏が駐日大使となるに及び、徐良はそのあとをついで外交部長に榮進し、顯著なる功績をあげたが、なかんづく新生中華民国をして獨伊その他の樞軸國全部に承認せしめたことは没すべからざる彼の偉勳である。

昭和十六年九月、新政府の強化を目的とする改組によつて、彼は新たに駐日大使を命ぜられ、褚民誼は再び元の外交部長として歸任することになつた。新政府の外交の軸心が對日外交にある點からみて、力量と識見に富んだ徐良が駐日大使に任命されたことは極めて機宜を得た人事である。彼は、駐日大使として日本に第一歩を印した時、即ち神戸入港の船上において歓迎の新聞記者團に對し、

「私は、昨年（昭和十五年）締結された日華基本條約に基いて最大の努力をしたいと決心して

ゐる。要するに私の任務は日華兩國の橋渡しである。そして兩國がこの協定のため眞摯に努力することによつて、私の使命は遂行されるものと思ふ」

と、極めて謙遜に、且つ意味ふかい第一聲を發し、第二代駐日大使として東京の大使館に入つた。

それより宮中に参内、天皇陛下に拜謁仰せつけられ、忝しく信任状を捧呈し、いとも優渥なる勅語を賜はり、恐懼感激してますます東亞新秩序建設の決意を固くした。

彼が外交官として最も崇拜してゐる人物は陸徵祥である。彼は常に言つてゐる「若し陸徵祥が蔣政府にあつて外交部長の椅子にあつたならば、今次のやうな兩國にとつて不幸な事變などは起らずに済んだであらうに……」と。

陸は、二十歳の頃歐洲に留學し、ロシアには二十年もゐたが、歐洲の事情に明るくなるに従つて東亞の結束を痛感し、あくまで日華兩國が提携して、歐米の東亞侵略に當らねばならぬといふ信念を持つてゐた。そして唐紹儀内閣、段祺瑞内閣、王士珍内閣に何れも外交總長として日華親

善第一主義に則る穩健且つ用意周到なる外交を行つてきた。抗日排日を政策とする蔣政権とはいつても對蹠的な立場にあり、遂に歐洲に赴いてしまった。

徐大使が、外交官としての陸徴祥を崇拜するといふ點からみても、凡そ彼の外交の根本方針を察するに足る。

徐大使は、身を持つること甚だ謹嚴、南京に外交部長としての要職にありながら、家族は天津において自分は質素な一室に住み、その生活も若い頃の學生生活そのままに頗る簡單を極め、食事のごときも一汁一菜の一元の料理に甘じてゐた。

麻雀は、中華の上層階級には附物のやうになつてゐるが、彼はこれを時間と頭腦を浪費し、且つ健康を害するものとして絶対に手を觸れず、また風流の巷に通ふこともなく、その他娯樂は全く彼には縁のないものである。もし、娯樂といひ、慰安といへば、それは餘暇を見て靜かに讀書に耽ることと、古今東西の書畫を蒐集することである。つまり思想は清新であるが、その生活態度や趣味は頗る枯淡味を帯びてゐる。

天津の中原公司には、多年にわたつて蒐集した貴重な書畫が夥しく保管されてゐたが、惜くも先年火災のため全焼してしまつた。その損害額は優に五百萬圓以上だといはれてゐる。でも、物慾に恬淡な彼は、むしろ彼以上に残念がる人々の見舞ひに對して「仕方がない」とあつさりして「こんど日本へ行つたら、どんな火災があつても焼けないものを蒐集します」と言つた。

「それは何ですか」と訊くと、

「日本個有の尊い國體の本質と、日本精神の眞隨を把握することです。」

と答へたといふことである。

何れにしても、最大の努力を拂つて、日華兩國の橋渡しのために盡すといふ烈々たる熱意をもつて邁進しつゝある徐駐日大使のあることは、日華兩國のために最も祝福すべきことである。

新中華民國の建設と 興亞院の大使命

支那事變の處理について、大きな役割を有し、そして現に有効適切に行動しつゝあるのは興亞院であ。

わが政府においては、興亞院の使命重大なるに鑑み、事變以來支那における日本政府の各官廳が出張して、各自關係の事務に當つてゐたのを統一するため、昭和十六年十月これら各官廳の事務を外務省と興亞院に統合せしむるにいたつた。

即ち、遞信、司法、農林各省その他の出先官憲によつて取扱はれてゐた事變關係の事務は一切を擧げて興亞院及び外務省に移管統合されたのである。

興亞院は、昭和十三年十二月十六日その官制が公布され、總裁は内閣總理大臣、副總裁は外務

大藏、陸軍、海軍各大臣を以て充てることになつたが、實際の仕事は總務長官、政務部長、經濟部長、文化部長、技術部長等によつて運用されてゐる。

そして、初代の總務長官として、柳川平助中將、政務部長鈴木貞一中將(當時少將)、經濟部長日高信六郎、文化部長松村喬、技術部長宮本武之輔諸氏が就任した。

興亞院の官制によると、その掌る事務は、

- 一、支那事變に當り、支那において處理を要する政治、經濟及文化に關する事務
- 二、前號に掲ぐる事項に關する諸政策の樹立に關する事務
- 三、支那において事業をなす目的として、特別の法律により設立せられたる會社の業務の監督及支那における事業をなす者の支那における業務の統制に關する事務
- 四、各廳の支那に關係する行政事務の統一保持に關する事務

といふことになつてゐて、その事務の範圍は極めて廣範にわたつてゐる。

前述のやうに、支那における各廳官の事務が、昭和十六年十月興亞院に統一されたのも、要す

るにこの官制第四項によるものだ。

従来、支那において事業をなす者は、その手続きの複雑多岐なることに甚しく悩まされてゐたが、この統一によつて著しく仕事がやりやすくなつた譯である。

なほ、現在特別の法律によつて設立された會社の代表的なものは、北支那開發會社と、中支那振興會社である。

前者には、子會社として

華北電信電話會社、華北交通會社、北支産金會社、龍烟鐵礦會社、華北鹽業會社、大同炭礦

等があり、専ら北支の産業文化開發に當つてゐる。

後者は日支合辦の經營で、子會社として、

華中鑛業會社(實際は會社と稱せず股份有限公司といふ、以下同じ)、華中水電會社、上海内河輪船會社、華中電氣通信會社、華中蠶糸會社、上海恒産會社、華中市公共汽車會社、大上海瓦斯會社、華中鐵道會社、淮南煤礦會社、華中鹽業會社、華中輪船會社

等があり、専ら中支の産業文化の開發に當り、前者と共に最近素晴らしい成績をあげてゐる。

このほかなほ各種各様の事業があるが、これらを監督し、指導し、統一して、政治及び文化と睨みあはせ東亞共榮圈の基礎を築く興亞院の使命は極めて重大である。

なほ、興亞院は現地工作の圓滑適正を期すため北京に興亞院華北連絡部、張家口に興亞院蒙疆連絡部、上海に興亞院華中連絡部、厦門に興亞院厦門連絡部を設け、陸海軍の中將又は少將を長官とし、さらに青島その他の要衝に出張所を置いてゐる。

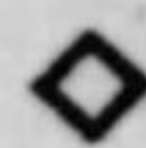
現在では、南京新政府の統治下における地域——即ち皇軍の占領地域における政治、經濟、文化等の諸事業は、外務省關係を除けば、悉く興亞院の指導監督を受けるのであるが、興亞院は現地連絡部との緊密なる連繫のもとに、事業の目的が事變處理及び大東亞共榮圈確立の趣旨に合致するものであれば、進んでこれを助成發展せしむる方針をとつてゐる。

しかし、以上の趣旨に反し、あるひは私利追及を目的とするやうな事業やその計畫に對しては嚴肅に排撃してゐることは當然といはねばならぬ。

初代總務長官柳川中將は、その部下の部長級並に連絡部長官に最適任者を得て業績大いに擧つたが、なかんづく政務部長鈴木貞一中將はその尤なるものであつた。

鈴木政務部長は、興亞院成立當初から重要な使命を帯びて活躍し、殊に南京新政府成立前後の活躍は最も華々しく、自ら大陸に赴いて適切なる處置を執り、快刀亂麻を斷つが如き施策を講じたことは世人周知の通りである。

その後、柳川總務長官は司法大臣となり、鈴木政務部長また國務大臣兼企畫院總裁となつたが後任の及川總務長官及び各部長の献身的努力により、興亞院本來の目的は着々として實現しつつある。しかも、興亞院の使命は今後ますます重要性を加へつゝあり、日華兩國人により一層その強化が希まれてゐる。



このほか日本の無任所大臣に相當する新政府の政務委員傳式説、李士群、陳君慧、趙尊岳の各氏を紹介すべきであるが、限りある紙數のため遺憾ながら省略する。

要するに、新政府の人的機構はいはゆる同志的結合であつて、それも同床異夢の同志でなく、同一目的のためお互に一身一命を抛つて顧みざる眞の同志であるところに強味があることを銘記すべきである。

北支・蒙疆・中支・南支の現況

北支の現況

一、北支の特質

北支が他の地方と異なる點は、古來よりその住民の間に「北方人の地方」なる思想があり、言語上、文化上、經濟上、生活上等々、南方と異なる一つの空氣があるので、中國を統一せる蔣介石の

力を以てしても、その特殊情勢を認めざるを得なかつた。

北支と日本との關係は古くから極めて密接濃厚であつた。外交的には從來日本と密接な關係にあり、又日本の經濟的利害が濃厚で、貿易の大部分も日本との間に行はれ、國防上からも密接不離のものがあるから、こゝに特殊の性質が附せられるのである。

南京に汪精衛氏を主席とする統一正式政府が生れて、すべて既存の政權が解消合一しても、北支のこの特殊性に鑑み、華北政務委員會が成立され、地方の自治性が保存されてゐるわけである。いふまでもなく、いはゆる華北の地は、政治、經濟その他凡ゆる面に於て、中國主權の及ぼす地域たるには相違ない。如何に新中國政府の生誕により、華北政務委員會の成立を見たとはいへこれが中國國土の一部分たることには毫も異るところがない。

然しながら華北政務委員會の成立は、華北の特殊地位が認められてゐるからこそ、その成立を見たものであることは、何人と雖も疑ひないところであらう。即ち端的にいへば、新中國政府が華北をして日本及び滿洲との地縁的特性を容認したといふことである。

遼都國民政府は、昭和十五年十一月三十日、日本との間に締結されたる日華基本條約に依つて現に日本と相提携し、協力しつゝあるのであるが、その目的は大東亞共榮圈の確立にあり、大東亞戰爭は實にその一段階である。

論ずるまでもなく、東亞共榮圈は各國家、各民族の共同繁榮を圖るものであり、そのために日本は總國力を擧げて努力してゐるのであるが、この共榮圈の確立は、謂はゞこの相隣接する日・滿・華三國の共同責任でもある。

茲に於て、北支自體の有する最重要性としては、日本との關聯に於いて、その豊富なる資源、就中鑛産資源の開発問題が起る所以である。

しかして日華基本條約第六條の「日本に對する資源開發の便宜供與」その他の條項に基き、今や着々として開發の歩は進められてゐる。

殆んど無盡藏の石炭と、貴重な鐵、その他の重工業資源を包蔵する北支の重要性は今更説くまでもないが、これらの開發には鐵・石炭・タングステンに重點をおく方針の下に、さきに北支那

開發の重任を帯びて設立された北支開發會社が、銳意これに當つてゐる。そして、時局の重大性は、同社の事業に著るしく拍車をかけ、開發の實績は着々と擧つてゐる。

北支は鐵、石炭等の重工業資源及び金、タングステン、螢石、礬土、頁岩等の多種類の礦物資源を埋藏してゐるが、特に石炭は各省に廣く分布し、品質もまた多種に亙り、製鐵に燃料に、極めて廣く利用し得られることは大東亞建設の前途に一大光明を與へるものである。

もとより、礦産資源が豊富であるからといつて、直ちにそのまま建設に役立つものではなく、交通、運輸、勞働力等のいろ／＼の條件が具備して始めて可能なることはいふまでもない。この點からすれば、河北、山東の資源が比較的に恵まれた條件の下にあるのに對し、山西のそれは將來の交通の完備に俟つべきであらう。

こゝに於て資源の重要性と同時に、緊急なる問題は、鐵道の持つ軍事的、經濟的、政治的使命の重要性である。

現在に於ける全支那の鐵道は、約七・八五〇キロ、うち北支、即ち揚子江以北に於けるものは

その約七割五・五四八キロであるから、この限りに於て、北支鐵道の占める比重は、可なり大きなものではあるが、これを北支那の廣大なる地域と、その人口とに按分するならば、その數字は洵に僅少のものとなつて來るのであらう。このことは、北支那經濟開發の上に、至大なる影響を齎らすものである。蓋し資源の開發は擧げて交通機關の整備に俟たなければならぬからである

二、北支の礦業

前述の如く北支の原料資源たる鐵、石炭を首め各種の資源開發は、對日滿供給をその主眼として、劃期的な發展が要請され、而もその圓滑なる遂行は、刻下不可避の事柄に屬してゐる。故に北支に於ける礦産の現況を明らかにして置かねばならない。

石炭・鐵・金

北支山西省の石炭は早くから着目されてをり、各國人によつて調査されたが、大體、埋藏量は

一千億疋を超えるといはれる。

炭質も無煙炭、瀝青炭等で、この地方に三百萬疋の鐵を埋藏することと相俟つて注目されてゐる。北支において鐵と石炭とが近接して産出されることは、現在問題となつてゐる銑鋼一貫作業の遂行に最も適してゐる。

山西省太原製鐵廠、陽泉製鐵所、北京郊外の石景山製鐵所など、すべてこの條件に適してゐて東亞共榮圈完成のために擔ふ役割は頗る大きい。

河北・山東兩省が炭礦に恵まれてゐることは前に述べたとほりであるが、事變後、井陘炭礦株式會社が新に誕生し、博山・淄川炭礦を含む山東鑛業、開灤炭礦と並んで、コークス用石炭の重要供給源となつてゐるほか、最近では、山西・磁縣・中興・大紋口・焦作・柳泉の各炭礦と北支開發會社との間に組合を結成して開發することになつた。

コークスは、いふまでもなく製鐵に缺くことのできないもので、銑鐵一疋の製造に對しコークス一疋が必要であるが、北支に多量のコークス炭を埋藏することは、北支の重要性を裏書きする

ものである。

對日關係に於て重要な役割を演ずるものに、山東省の山東鑛業・中興炭礦、華豐、華寶の炭礦がある。

山東鑛業は膠濟線に沿ひ、中興炭礦は徐州の東北方嶧縣にあり、津浦、隴海兩線に沿ひ、華豐炭礦は津浦線大紋口驛の東南一〇キロばかりの所にあり、華寶炭礦は更に三〇キロばかり行つた所にある。

炭礦の開發が他の經濟建設と同様に、あるひはそれ以上に、大きな困難と障礙とをもつものであることはいふ迄もないが、日本の有する技術の援用その他によつて、北支各炭礦がすべての困難を乗り越えて、増産の道を驀進し續けてゐるのである。

鐵は石炭に次ぐ北支の重要鑛産物である。

鐵鑛は主として、山西省の定襄・寧武・山東省の金嶺鎮・萊蕪及び江蘇省利國驛等に多く埋藏されてゐる。

定壞のものは、雲母鐵銹層状を呈してゐるが、寧武のものは、褐鐵鑛からなつてゐる。

金嶺鎮、利國驛のものは、何れも接觸鑛床で、兩者とも磁鐵鑛から成つてゐる。

その他山西省の陽泉・太原東山、潞安東部の太行山脈等には、小規模のものではあるが芋状赤鐵鑛の賦存を見て居るのである。

金嶺鎮及び萊蕪以外は、何れも現在既に製鐵料として使用されてゐる。

即ち山西省のものは、大倉鑛業株式會社に依り、また利國驛は日本鋼管株式會社に依り、而して萊蕪のものは、日本製鐵株式會社に依り、何れも稼行されてゐる。

次に金鑛資源であるが、この産出状況は主として山東半島及び冀東地域に多く埋藏され、この外山西省代縣にも砂金として賦存し、山東半島のものは、山金及び砂金として産出してゐる。

山金は、主として片麻岩類の裂罅を充填、あるひは交代して生じた含金石英脈より成つてゐる。時に黃鐵鑛、方鉛鑛を伴ふことがあり、招遠金山や牟平縣等から産するものには、多量の黃鐵鑛を含んだ脈がある。

この招遠・牟平縣の兩金山は山東省に於けるといふよりも、寧ろ全北支を代表する金山であるといへよう。尙ほこの外山東には平度・沂水等に若干の金がある。

砂金は前記沂水・平度の外、文登・牟平棲霞等から産出してゐる。

冀東地域に於ては、長城線に沿ひ撫寧・遷安・遵伍・興隆・密雲及び懷柔の諸縣に跨つて、廣く分布されてゐるが、これ等のものは主として片麻岩・結晶片岩或は花崗岩に含まれるもので、稀には石炭岩中の含金石英脈を爲してゐるものもある。

山西省代縣の砂金は、比高約百米にも及び段丘を構成する砂礫層の底部に賦存するものである。

而して現在に於て操業中のものは、冀東地域に於ては、金廠峪に鐘實北支鑛業株式會社が、また長城に大陸鑛業株式會社、老虎山に宏鑫採金公司・遵化は北支産金會社（昭和十五年四月設立 資本金二百萬圓國策會社の一）大成は和昌公司、懷柔は東洋紡績株式會社等に於て、それぞれ稼行してゐる。

山東省に於けるものは、即ち招遠を招遠玲瓏公司に依つて操業され、山西省に於ける代縣は大倉鐵業株式會社に依つて、目下盛んに開發されつゝある。

而して、これ等金山の稼行状態を見るに、現在に於ては、長城金山が總泥青化製鍊場を運轉してゐるのみで、その他のものは何れも機械設備を有するものはなく、いはゆる土法かあるひは、小規模の機械設備を以て操業を爲してゐる現状である。

然しながら、金廠峪・招遠・遵化等の諸金山に於ては、目下機械設備を施すべく着々計畫を進めてゐるから、これが完成の暁には、土法産金と相俟つて、相當の成績を擧げ得るであらうことは言を俟たない。

その他

アルミニウムの原料として、礬土頁岩も、北支の重要な資源となつてゐる。礬土は北京から山海關に至る一帯の冀東地區、開灤鐵區、秦皇島を據點とする石門塞鐵區、博山、淄川一帯の山東

鐵區に出るが、開發には華北礬土股份有限公司（資本金五百萬圓、昭和十四年十二月設立）が當つてゐて、既に相當の量を出してゐる。

その他、山東省蓬萊縣、掖縣の螢石、冀東地區の重石等の重工業資源の開發が行はれてゐる。

三、經濟建設の基礎としての北支工業

無盡藏の動源

重慶政權が西南奥地に立てこもつて、僅かに餘命をつないでゐるのに引き換へ、わが占領地域における北支の經濟建設は一方肅正工作の輝かしい戦果と相俟つて、あらゆる困難を克服し、着々と建設の軌道を走つてゐることは心強いかぎりである。

暴戾な支那軍の放火爆破によつて一夜にして灰燼に歸した青島の紡績工場も今は殆んど復舊したし、兵火による被害こそなかつたが、一時は事變前の半にまで生産の減退を見たともいはれる

北支第一の工業都市天津も、その近代的工業の大部分は日本の資本と技術との提携によつて、事變前よりも更に一段と華々しい發展を示してゐる。

勿論、世界情勢の極りない變轉は、北支の經濟建設を平穩のうちにおかなかつた。

日獨伊三國同盟の締結及び大東亞戰の勃發は東亞自給經濟體制の強化を招來することになり、従つて北支における經濟建設は重要國防資源の開發に更に重點を注ぐことになつた。

そこで、工業部門としては、まづ資源開發の原動力である電力を始めとして、製鐵・製鹽等について以下、その建設の現況を見よう。

北支の工業を説明する前に、原動力として關聯して考へられることは、北支の電力問題である。

現在北支の發電は、未だその需要も少く、隨所に小規模の火力發電が行はれてゐるに止るが、黄河その他の水力に依る絶なる電源を利用することを考ふれば、その將來の發展は見るべきものである。

従來の北支電氣事業の缺點は火力偏重であつたが、この缺陷を補ふため、水力發電の計畫が樹

てられ黄河の水力發電は目下基礎的調査を行つて居り、北支における電氣事業が火水併用によつて一大飛躍をするのも遠くないものと期待される。

北支に於て最も「なるものは、彼の黄河の水力による發電である。黄河は遠く青海にその源を發し、内蒙・山西を経て、河南・山東の野に向ふのであるが、山嶽地帯を貫流する地點に於ては、各所に、發電に適する箇所があり、その發電能力は數百萬キロに上ると稱せられてゐる。この問題は、更に黄河の治水事業に關聯せしめて解決せらるべきものである。

即ち黄河の治水問題は、災害の防止及び農業の發達を主眼として、古來屢々いろ／＼の對策が講ぜられたのであるが、發電計畫とは密接なる關係がある。黄河の治水事業による河流水位の調節・耕地の擴張・農業水利の調整を行ふ一面、水力による大規模發電によつて、肥料工業その他多量の電力を要する工業の發達を促進するときには黄河流域の平原は、かのナイルやミンシツピ一河の流域に見る如き、豊沃なる農業地域を形成すると共に、各種の工業を興す事が出来るわけで、黄河の治水發電と北支那經濟の發達とは不可分的關係にあり、綜合開發の妙味が充分に發揮

されなければならないのである。

現在、この電氣事業の會社としては、北支開發會社の子會社として華北電業株式會社（資本金一億圓）が昭和十四年十一月設立された。

同社は十五年二月より業務を開始し、北京・天津・冀東・山西・河北・河南の發送電・配電・周波・電壓等を一元的に行つてゐる。

そのほか、青島に膠澳電氣株式會社（資本金八百萬圓）、濟南に齊魯電業株式會社（資本金四百萬圓）、芝罘に芝罘電業株式會社（資本金二百萬圓）等があり、いづれも北支開發の子會社として各地方の電氣事業の整備に當つてゐる。

製 鐵

製鐵事業は世人周知の如く、大體二種の鑛石と三種の石炭によつて、一種の銑鐵を得るのである。即ち、鑛石のまゝ輸送することは、日支間の船舶輸送力及び港灣能力に甚しき無駄を與へ

ることとなり、寧ろ現地に於て製品となし、減量して輸送する方が得策である。

この意味に於て、將來の製鐵事業は必ず北支に於て起されなければならない。北支の鐵鑛石は、製鐵事業上不可分の關係にある粘結炭及び石灰石と近接して賦存してゐるから、製鐵事業の立地條件に恵まれてゐるといふべきである。現在は少量の銑鐵生産に止まつてゐるが、將來は銑鋼一貫作業によつて、少くとも炭支自體に於て必要とする鋼材は、自給となすことが適當であらう。

曹達工業及製鹽

曹達工業に於ても亦同様で、鹽・石灰石・石炭を持つて來て曹達を造るのであるから、曹達工業の將來に於ける増産といふことは原料の所在する北支に於て行はるべきものである。

北支に於ける鹽の産地は、長蘆鹽と山東鹽である。長蘆鹽は渤海灣一帶に産する天日製鹽をいふので、この地方は天日製鹽に最も必要な蒸發量が大きなこと中國隨一といはれ、地勢・土質と

もに鹽田には最適の條件を備へてゐる。こより曹達灰と苛性曹達と食料用鹽を生産し、それぞれ相當な成績をあげてゐる。

山東鹽といふのは、黄海から渤海灣に亘る山東半島一帯の海岸に散在する七鹽場から産するもので、同區は長蘆鹽と共に支那六大海鹽場の一である。

その他、礬土頁岩を原料とするアルミニウム工業、耐火材工業、石炭、石灰石及び電力を結合するカーバイト工業、セメント工業等凡て皆然りである。

斯る重量の重い原料を用ふるもの、最終製品にまで達しなくとも、一つの原料製品に仕上げて行くといふことが、北支重工業、化學工業の方針でなければならぬ。

尙ほその他に、食糧農産物及び棉花の大增産をはかるための肥料工業等も、北支に於て發達すべきは必然であるが、こゝに力説したいのは燃料工業についてである。

わが國が、高度國防國家として繁榮するためには、液體燃料資源に乏しい缺陷を補ふ必要がある。大東亞戦争の戦果として南方の液體燃料を豊富に獲得するとしても、將來日滿華の工業及び

文化の大伸展はこれを無盡藏に必要とするから、これのみに依存せず足もとの資源を大いに活用すべきである。

石炭液化については、我が國に於ても夙に直接法・間接法・高低温による乾溜法等と様々に研究が重ねられ、貴重な成果が續々ともたらされてゐるのであるが、無盡藏といふべき北支の石炭資源を活用し、北支に石炭液化工業を興して國家に貢献すべきことは、最も緊要事であらう。

また石炭液化事業には、高度の技術、資本と巨額の經費とを要するが、現在の液化方法にして更に簡單なる方法によつて、ガソリンに代る燃料を造ることは不可能ではないであらう。

現に自動車を代用燃料によつて動かすことは、既に木炭を始めとし薪・天然瓦斯・プロパン瓦斯・カーバイト・コークライト等多種多様のものが、かなり多量に且つ漸次一般的に使用せられて來てゐる。

以上が北支經濟の重要性とその開發要點の一端であるが、これを要するに、東亞共榮圈の重要な一環としての北支の豊富なる資源を開發して、高度國防國家體制の確立に寄與すると共に、

北支那民衆の生活を安定向上せしめ、東亞共榮圏の理想を達成することは、その指導的地位にある日本民族の責務である。

これはもとより遠大な計畫であつて、今日の事情からすれば、資材の關係、資金の關係等を考慮せねばならぬから、明日からでも直ぐ出来るといふ問題ではないが、日本民族としては、志を同じくする中國と提携し、如何なる困難を排しても、この目標達成に向つて邁進し、これを貫徹しなければならぬ。

四、北支の金融

中國聯合準備銀行は、本年（十七年）三月十日が三度目の誕生日である。

今やその發行する通貨は、一部奥地を除き舊法幣を殆んど北支より驅逐して、新生北支の建設に必要な通貨統一の大業も殆ど完成を見るに至つた。

斯くの如く、短時日に通貨統一の難業を爲し得たのは、世界通貨史上に於ても前例のないこと

ろであるが、これがためには中央及び地方を通じて、並々ならぬ苦心が拂はれて來たのである。即ち中國民衆の舊法幣に對する盲目的信賴、新紙幣に對する不安があつた上に、蔣政權の妨碍、援蔣第三國の謀略等聯銀券の普及には色々な困難が横つてゐた。

これ等を克服し、今日の輝しき成果を收め得たのは、政府及び聯銀當局の施策、措置宜しきを得たがためである事は勿論であるが、日本の絶大な援助を看過することは出来ない。

聯銀券は、國內通貨として一應完成したのであるが、更に進んで外國の物資も自由に買へる様にならなければ、未だ完全なる通貨とはいへない。この點に就いては從來から爲替集配制の實施を始め、聯銀券の對外價值維持に關し必要な工作が施されてゐるが、北支の經濟建設に要する諸物資を外國から輸入する上にも、聯銀券に完全な外貨轉換性を賦與することは最も必要であるから、今後この目的に向つて、更に一層の努力が傾注されることであらう。

今日聯銀券を立派に育て上げて行くといふことは、單に新生北支に課せられた使命といふのみに止らず、東亞共榮圏完成のための日滿華共同の責務であると言へよう。

今茲に昭和十三年三月開業以後の聯銀券強化工作の經過を簡単に説く。

聯銀券強化工作の經過

聯銀券の經過は、次の三段階に分けることが出来る。即ち、國內通貨統一時代、聯銀券價值維持時代及び物資確保時代である。

第一段階の國內通貨統一時代は、昭和十三年三月十日に開業と同時に舊通貨整理辦法を公布し、同六月十日を以て南方法幣の流通を禁じたのに始る。次いで同八月と翌十四年二月の二回に亘つて北方法幣の切下げを斷行し、開業一年後の昭和十四年三月十日には、一切の舊法幣の流通を禁止し、早くも通貨統一工作を完遂して次の段階に入つた。

第二段階の聯銀券價值維持時代は、昭和十四年三月十一日の外國爲替一部品目聯銀集中制の實施に始る。更に同七月十七日には集中制を金品目に擴大し、越えて昭和十五年一月二十三日にはこれに關する免除規定を撤廢して集中制を一段と強化し、次いで同六月二十五日から無爲替轉移

入の許可制を採用し、これによつて聯銀券の對外價值は完全に維持されることになつた。

第三段階の物資確保時代は昭和十五年九月に日獨伊同盟の發表と共に、聯銀は國際情勢の急展開に對處すべき方策によつて、實施統一された金融力と維持された通貨價值とで、北支に必要な物資確保に萬全の準備を整へたのに始り現在に及んでゐる。

現在聯銀券の發行高は、次第に増加し、昭和十五年末の七億一千五百餘萬圓、昭和十六年一月末七億四千餘萬圓と累増したが、その後は六億圓臺に收縮し、昭和十六年五月中旬の發行高は六億六千萬圓餘となつてゐる。

聯銀券の發展と相俟つて聯銀の地位も全く不動のものとなり、北支の經濟新體制は當然聯銀を中心とする金融政策に反映して、相共に無限の進展を約束されることになつた。

このことは聯銀の業績に如實に表はれ、昭和十五年末現在の預金總額は五億九千四百七十餘萬圓と、前年末に比べて一億五千二百七十餘萬圓を増加し、貸出總額も三億一千六百八十餘萬圓と前年末に比して、一億四千四百八十餘萬圓を増加して、全面的に顯著な躍進振りを示したのであ

る。正に發展の途上に横たはつた障礙は次から次ぎに悉く征服され、北支經濟建設の基底は既に成つたのである。

五、北支の文化工作

國民政府の成立と同時に、北京の臨時政府は華北政務委員會に改編されたが、同委員會は文化においても臨時政府の方針を踏襲してゐる。教育一般は同委員會の下にある教育總署が行ふところであるが、昭和十六年初めから故湯爾和氏の後をうけて同署督辦に周作人氏が就任した。

烈々たる改革者の氣魄を有し、ハヴェロツク・エリスに傾倒して支那の表面的道德を痛罵し、ギリシヤ語に通じ、あくなき好學心と眞理の探求を讚美する周作人氏によつて、過去の誤つた教育制度と教育方針を清算し、新生中國に適はしい教育政策が採用されることが期待される。

國立北京大學は北京・北平・清華・交通の四大學を合併し、醫・工・農・文・理の五學院を併置した綜合大學であるが、四年制であつて、すでに各學年とも充實してゐる。これらの例が示し

てゐるやうに、徐々に整備され、新らしい東洋文化の基礎を築かうとする方向に向つてゐる。

衛生、厚生は政務委員會内務總署が行ふ外に、新民會、同仁會その他の機關が協力してゐる。新民會は北支における民衆指導、社會教育、社會施設の各般にわたつて活動してゐる一元的な機關である。

學術機關の最近の活動としては、東洋文化協議會が昭和十五年九月に北京で第四次評議會を、中國醫學大學がやはり九月に北京で第二回大會を開き、また華北農學大學、佛教同啓會その他も開かれてゐる。

教育政策として、大學などの他に、支那小學校に對する對策も考へられてゐる。

その一例として、扶輪學校がある。これは鐵道沿線の鐵道從業員の子弟を集めた小學校であるが、民國七年頃、中國側で作られたものである。割合に好成績であつたので、舊國民政府もこの扶輪學校を公認して、次第に設備を擴張して行つた。

その後、事變直前まで中國共產黨が、方便的に排日、抗日を唱へ、それが機會となつて、扶輪

學校の教育も亦、排日、抗日的になつて來た。

事變が勃發すると、それと同時に鐵道従業員は一時みんな職場を捨て、逃げてしまつた。

北支の治安が成りかけると共に、彼等はボツ／＼と歸り出して來たので、新たに我が方で設立された華北交通社會では、これらの復歸者を採用すると共に、その子弟のために、新しい親日防共のスローガンの下に、扶輪學校を復興したのである。

初めは、彼等はびく／＼してゐたものだが、入學して見ると、非常に親切であることが分つた。親身も及ばぬ徹底した教育をしてくれ、月謝もとらぬし、教科書なども全部支給してくれる。又、無意義な政治運動を加味した教育ではなく、全然さういふ方面には頭を悩まされる心配がないので、皆非常に欣んで働くやうになつた。

昭和十五年、華北交通では、扶輪小學校長達二十數名を選抜して、日本を視察させた。

排日、抗日の思想を子供の時から頭の髓の髓まで叩き込まれ、日本といふ國は、貧弱な小さな國の癖に、暴虐極まりない國だといふ風に教へ込まれてきた彼等には、日本に上陸して、觀る

物、聽く物、すべて驚異的だつた。そして、大いに日本に對する認識を新たにし、日本の文明・文化は、歐米諸國に劣らないと認め、歸つてからも生徒達に對して、早速その日本文化の素晴らしさを説くやうになつた。

これは、實に有効な親善文化工作である。

將來も、もつと擴張して、緊密且つ眞剣に文化工作に寄與するものと期待される。

現在は、華北交通の中國人社員が約七萬、その子弟の大部分がこの扶輪學校に入學してゐるのであるから、相當數のものである。

蒙疆の現況

一、蒙疆の特質

特殊防共地域といふのが、蒙疆に對する通り言葉となつてゐる。

一般に、蒙疆とは何處々々の地域をいふかといへば、蒙古民族固有の定住區域を總稱するのであるが、現在、軍事、政治、經濟的に取り上げられてゐる蒙疆とは察南、晋北、蒙古聯盟の三自治政權の統轄區域内のことである。

そして、今次の支那事變はその波及するところ、政治、經濟、文化諸般の事項にわたつて、この蒙疆も一大變貌を呈せざるを得なくなつた。日本と最も關係深い蒙疆の經濟も事變の影響で、どう變貌したか、それを述べて見よう。

從來より、蒙疆は華北就中京津地區經濟の背後地をなすと同時に、またそれ自體の背後地として、西北地方を擁してゐることが、第一の特質であつた。

大同炭礦、大青山炭礦、龍烟鐵鑛等の有數豊富なる資源を有する地域として、これが大々的開發を行はねばならず、しかも農業地區たる蒙疆が、如何にしてこの開發を賄つて行くかといふことが、第二の特質である。

二、經濟的地位

蒙疆經濟は、西北貿易の活潑化と地場農産物の増産、輸出増加とによつて、はじめて成り立ち得るものである。然るに西北貿易品、主として羊毛、皮革、藥草の蒙疆内の出廻りは事變後殆ど杜絶して、その集散地としての蒙疆の地位は、かなり變化して來た。然もその農産物も、必ずしも満足すべき状態にはない。

農業地區とはいひながらも、小麦及び小麦粉を疆外より仰がねばならない以上、その頼るところ

ろは主として雜穀と阿片との輸出であらう。

綏遠の阿片といへば、早くから定評のあるところである。人煙稀な綏遠の一角にあつて、傳作義がよく一萬の兵力を擁し、綏遠軍閥の地歩を維持し得たのも、この阿片が無言の支持を與へたことに想到する人は尠いであらう。この阿片はひとり蒙疆管内に生産さるゝのみならず、遠く寧夏、甘肅、青海方面から搬入さるゝものが多く、一箇年の取引量約六十萬斤餘（一千萬兩＝一兩は十匁）と稱せられ、蒙疆区内消費を除き、一箇年平均四十萬斤は京津地方に輸出せられてゐる事變による西方一帯の敗殘黨軍の出沒は、これが輸送路を脅したため出廻りの澁滞を見たが、日本軍の敗殘兵掃蕩及び蒙疆軍の活躍により逐日改善、例年の域に達せんとしてゐる。

この雜穀と阿片は、兩者共に昭和十五年は相當の豐作を示し、平年作約五十萬噸の雜穀は大體三割方の増收であつた。ところが阿片も増收であつた上に、同年その公定價格か引上げられたため、農民は潤澤な賣上金を得て、雜穀を換金する必要を感じず、悠々これを地下に退藏してゐるといふ譯だ。そのため折角増收を見た雜穀も、當局の期待する程の疆外輸出を示し得ないのが同

年末の實情であつた。

貿易の側より蒙疆經濟を見ると、輸出品の主なるものは、雜穀、獸皮、藥材、獸毛、礦産品となつてをり、これに對して輸入品は開發資材、紡織品、木材、食糧品を主とし、そのうち開發資材は全輸入額の四十五%に達してゐる。これを昭和十五年上半期の數字について見ると、全貿易額の九十三%を占めてゐる。

鐵道貿易では輸出二千八百萬圓、輸入八千二百萬圓、差引入超五千四百萬圓となつてゐる。

大體毎半期五千萬圓見當の入超尻をどうするか、如何にして開發資材を入手するかは、蒙古政府の經濟政策の重點が置かれる所である。

而も疆内の特殊法人に對する政府持株の拂込が多く、これが蒙古政府財政上に大きな問題を投じ、且つ蒙銀券發行高の一大増加となつてゐる事も注目に値する。

東洋のザールと稱さる

蒙疆の大炭田

蒙疆の産業及び經濟を語るには、先づその石炭と銀を挙げねばならぬが、なかんづく石炭の埋藏量は殆ど無盡藏といふべく、専門家は蒙疆の大炭田を指して「東洋のザール」と稱してゐる。従つて、將來蒙疆産業の中心となるものは石炭であり、これに附隨したる各種産業が發達し、經濟もまたこれによつて左右せらるゝものと見なければならぬ。

蒙疆の炭礦は、大體において大同炭礦、大青山炭礦、下花園炭礦の三大炭礦に區別される。

興亞院蒙疆連絡部は、昭和十五年末において、昭和十六年度（成吉思汗紀元七百三十六年度）を初年度とする開發修正五ヶ年計畫を樹立し、大青山、大同、下花園を中心として資金、勞力、輸送、電力、治安等特 横の關係を睨みあはせ、一意増産計畫を進めてゐるので、近き將來にお

いて日本の期待額をはるかに凌駕するものと確認されてゐる。

各炭礦についてその概要を述べれば左の通りである。

大同炭礦

大同炭田は面積約一千八百七十平方キロ（約十八萬町歩）にわたり、埋藏量百二十億噸、炭質は大體に高度瀝青炭で、工業用炭、家庭用炭として頗る良好である。下部含炭層の石炭は、強粘結性をもち製鐵に適してゐる。

同炭礦は、大正七年頃から採掘されてゐたが、昭和十二年十二月、蒙古聯合自治政府の前身である蒙疆聯合委員會の專營となり、さらに昭和十五年一月以來、蒙疆特種法人の大同炭礦株式會社（資本金四千萬圓）によつて開發されてゐる。

従業員約六千人に及び、他の二炭礦と共に、蒙疆産業の中核をなしてゐる。

大青山炭鑛

大青山炭田は、京包線鐵路の北方をほゞ東西に走る大青山山脈と、蔭山山脈とに挟まれた高臺地に位し、開發炭田は包頭、薩拉齊に沿ふ緩慢な波狀形大盆地で、その面積は大同炭鑛に匹敵すべく、埋藏量は百數十億噸と稱されてゐる。

品位は、漆黒色の光澤を有する瀝青炭で、炭質強靱にして風化することなく、火持ち火着き良好にして、あらゆる燃料に適するが、特に工業用炭、製鐵用炭、家庭用炭として最良である。

この炭鑛は、もと／＼古い歴史を有し、永年にわたつて地元の土民が自家用燃料として頗る原始的な採掘をしてゐたが、大正三年（民國三年）十月、漢南鑛業股份有限公司が設立されて、これが開發に當つてゐた。しかし、採掘法も幼稚で年産五萬噸程度にすぎず、包頭及びその附近の一般市場の需要に當てられてゐた。

しかるに、昭和十二年支那事變勃發して、皇軍が蒙疆の要衝を占領するや、同炭鑛の幹部は逃

走して、徒らに荒廢にまかすといふ状態であつた。

そこで、翌十三年十月二十七日、現在の蒙古聯合政府の前身たる蒙疆聯合委員會は、この經營の最適任者として清水行之助氏をして開發の任に當らしむることになり、公稱資本金一百萬圓を以て昭和十四年九月六日、大青山炭鑛股份有限公司が設立されたのである。

鑛業報國を念願とする清水社長は、同炭鑛の重要性に鑑みてあらゆる近代的設備をなし、着々その開發に當つてみると、豫想外の良質と埋藏量の豊富なのにます／＼力を得て鋭意開發に當つたが、政府當局においてもその有望なる將來性に鑑み、包頭から大青山炭田の中心地たる石拐子まで四十軒の鐵道を敷設するにいたつた。

これによつて、採掘された石炭は直ちに京包線及び同蒲線、正太線等と連絡して陸海の要衝に容易に搬出されることになつた。

今や、同炭鑛は資本金を倍額増資し、清水行之助氏を中心に陣容を新たにして、使用人員も數千名に達し、増産目覺しきものがある。殊にその使用人に對する福利施設の完備により、日蒙親

善に資するところ大なるものがある。

しかしながら、現在の資本金二百萬圓では、十分にその開發をなすことは困難であるといはねばならぬ。この資源を開發するには、少くとも資本金を一億圓ぐらゐに増資し、以て東亞共榮圈確立の一翼とすることこそ現下の急務であらう。

下 花 園 炭 鑛

察南地區には下花園、陽原、懷來、宣化、涿鹿等があり、何れも良質豊富の石炭を埋藏してゐるが、なかんづく下花園炭鑛は、寶興、花園、大昌、厚豐の四坑よりなり、その埋藏量は約六百萬噸と稱されてゐる。

事變前は、花園坑は察哈爾省建設廳において、他の三坑は民間の經營であつたが、事變後蒙疆聯合委員會の管理のもとに、滿洲炭鑛株式會社をして採炭にあたらしめてゐた。

最近の日産約四百噸と稱されてゐるが、施設の改善により一段の飛躍を見るものと期待されて

ゐる。

鐵 蒙疆の鐵は、龍畑鐵鑛を代表的なものとする。察南地區の宣化、龍關兩縣に跨る一帶の地域に埋藏さるゝ一億萬噸がそれで、龍關、煙筒山の頭字をとつて龍畑と呼稱されてゐる。含鐵量は四十五%乃至七十%もあつて、大治よりも良質といふ折紙がつけられてゐる。

第一次歐洲大戰當時は、段祺瑞らがこれを開發して巨利を得たが、大戰後鐵價の暴落によつて大正十三年（民國十三年）休鑛となつてゐた。勃發後、日本人の手によつて經營さるゝことになり、いよゝゝ本格的開發が行はれ、昭和十三年春、日本の八幡製鐵所に前時代の貯鑛六萬噸を送つたのは有名な話である。

なほ、北京の石景山製鐵所も、日本人によつて復活したので、こゝでも龍畑鐵鑛は相當量の消化を見るであらう。

何れにしても、蒙疆において優秀なる鐵鑛および製鐵に必要な良質の石炭が無盡藏に埋藏されることは何といつても蒙疆經濟の強味であるばかりでなく、大東亞戰を戦ひぬぐ上に、延いては

東亞共榮圈確立のため最も強味とすべきである。

水稻 近き將來における栽培面積は、六千五百ヘクタールに飛躍、生産量は百十三萬石を擧げ人口累増による所要量を遙に突破する。

雜穀 近き將來における生産品は大麥、小麥、燕麥、高粱、玉蜀黍、粟黍を通じ地區内食糧確保は勿論、輸出部面における地位を強化し、華北の食糧政策に協力してゐる。

蒙疆の文化面

蒙疆地域は、支那事變以前に於いては、察哈爾、綏遠、山西の三省及び内蒙古軍政權の四系統に分屬してゐたのであるが、以上のうち内蒙古軍政權を除く爾餘の三省は、等しく舊國民黨政府の統治下に於て、三民主義及び容共の指導精神に基き、反滿抗日的傾向にあつたことは固より、昭和十一年秋の綏東事件以後は一層それら指導者達の抗日思想に拍車をかけ、自然これは教育方

針にも影響を免れ得ないところであつた。

昭和十二年十月、日本軍の蒙疆進駐に依り、忽ちにして徳王を主席とする新政權が確立され、抗日滿勢力とその指導下にあつた教育、文化施設並に方針は全く一掃された。

しかしてそれに代つて必然登場したものは、防共と滅黨と親日滿を新旗色として樹立された蒙疆新政權の文化教育方針であつた。

以下各自治區別に再建教育の概況及び文化施設復興の現状を一瞥して見よう。

イ、教育

蒙古聯盟自治區の教育は、その特殊性を見出すことが出来る。即ち同地區は約二百萬の人口中二十萬の蒙古人と、百八十萬の漢人との雜居地帯であるため、教育方針も亦自づと二元的にならざるを得なく。

特に蒙古自治聯盟政權の樹立が「蒙古人の治むる蒙古」たることを指導精神とし、且成立の當

初に於て、成吉思汗紀元の採用を斷行するなど、蒙古民族國家再建を指標として、頗に民族意識の昂揚を見せたところに、少數民族とはいへそこに蒙漢兩族の主客の地位が自づと明らかなるものを否定することは出来ない。

そこに従来の漢人治蒙的諸制度を顛覆して、蒙人教育方針は茲に飛躍的發展の一步を踏み出したものといひ得る。

翻つて、蒙漢兩族居住の地域的分布状態を看るに、先づ漢人はその發展経路及び職業的に見て京包鐵道沿線の農業及び商業に利便の都市又は近郊に集團居住し、蒙古人はその職業が牧畜を主とする關係から、錫林郭勒盟、烏蘭察布盟、伊克昭盟の殆ど全部、察哈爾盟北部に漢人と雜居するといふ現状である。

従つて、學校その他の教育乃至文化施設も、以上の分布に即應して計畫對處されてゐる。

教育方針の大綱は、蒙族、漢族、回族の三者に別れてゐる。即ち

蒙族

- 一、産業、實務教育の徹底
- 二、體育、衛生、宗教教育の徹底
- 三、日本語及日本文化吸收教育
- 四、常識及生活改善への教育

漢族

- 一、親日的教育、日本語教育
- 二、經學的道德教育及産業實務教育

回族

- 一、親日的教育、日本語教育
- 二、商業道德教育

これに關聯して、考へられることは、蒙古人の民族運動である。

元來、漢人が、蒙地へ入殖したのは、清朝康熙年間以來のことであり、乾隆の末葉より次第にその數を増して來たのである。

彼等の定着状態は、先づ山東人が蒙地に入殖し、血縁的、地縁的部落を作ると、それを中心に支那本土に本店を置く河北人が來つて雜貨商を營み、これがやがて農民相手の金融機關に轉化する頃になると、山西から本格的な金融機關たる錢莊が渡來する。かくてこの農業社會が相當程度に發達を見ると、次に食料品、農具店等が現はれ、こゝに支那本土の農村が蒙地に再現するのである。

右は彼等漢人の蒙古に於ける新農業社會形成の過程であるが、然らば、この農業社會の基礎となる土地の獲得は如何なる手段によつてなされるか。

彼等は蒙古民族の代表者、王公・旗人・の佃戸（小作人）となり、或は無主の荒地を私墾するのであるが、地主たる王公、旗人は自己の財政困難から、佃戸に對して、納租の前借を申出る。

佃戸はこれを許諾し、その抵當物件として必ず土地を要求する。かくて、土地の賣買が盛んに行はれ、蒙地は次第に漢人の近代市民的所有に歸して行くのである。

そして、蒙地には攪頭なるものが存在し、これが蒙古の王公經濟を破壊し、蒙地の典賣、開放に拍車を加へたのである。攪頭とは蒙古王公の殖民開放上の機關たる土地賣買仲介業者である。

攪頭は、蒙古王公の私設機關の如きものであつたがために、單に招民の業のみならず、王公の徵租事務に干涉し、地局、租子櫃（何れも徵租機關）あるひは荒務局の官吏と結託して、自ら土地の測量を行ひ、荒地の等則を勝手に變更し、荒賃銀を詐取する等の不正手段を弄して、後には全く地主階級と化し、開放と金融との二つの役割を有つに至り、蒙古社會に於ける重寶な存在となると同時に、痛ともなるに至つた。

これら漢人の政治的、經濟的の蒙古侵略に對して、内蒙古自治運動が起つた。

西蒙一帶の蒙古族の耳朶を打つたものは、赤露革命と、その指導の下に自治獨立に邁進した外蒙族の政治的飛躍であつた。更に彼等をして長夜の眠りから醒めしめたのは、昭和七年三月の滿

洲建國と、それに参加した前述同族の態度であらう。滿洲建國の直後、徳王らが屢々滿洲國参加を要望して來たのだが、内外種々の障碍からその運動は實踐の過程に移らなかつた。けれども却つてそれは別個の自治運動の形で發展の道程を辿つた。

昭和八年、内蒙古各盟旗王公が百靈廟に參集、蒙古民族の自決を指標とする「内蒙古自治政府」組織を決議して、これを國民政府に通告した。これに對する國民政府は、放任せば外蒙同様、内蒙も亦離反獨立の一途を辿るべきを憂ひ、内蒙自治高度化阻止の策を採つた。

しかして、蒙古代表と國民政府代表は、百靈廟に會談した。そして成案を得たが、その成案の程度の自治は、蒙古人本來の希望と甚しき懸隔あるため、蒙古各王公間には、獨立、急進の物情騒然たるものがあり、かゝる情態に善處を怠るときは、再び大勢逆轉することを惧れた國民政府は、翌民國二十三年（昭和九年）の中央政治會議に於て、前年の協定自治案を修正して、新たに内蒙自治辦法八原則が決定された。その後、幾多の波瀾があつて、民國二十五年（昭和十一年）内蒙軍政府の樹立があつた。

この内蒙古軍政府の樹立は、近代蒙古再建の歴史的意義を有するといへる。それから間もなく、綏東事件が起つた。

これは内蒙古軍政府と綏遠省政府との行政區劃の紛争である。その原因は傅作義の内蒙側壓迫にあつた。

かくて、初冬の陰山山脈の白雪を戦血で染めたのだが、一勝一敗を繰り返してゐるうち、十二月十二日の西安事件の突發となり、休戦となつた。蒙古軍は戦備の充實による倦土重來を他日に期し、専ら保境安民を以て錫、察兩盟内に英氣を養ひつゝ待機、風雲の去來に備へつゝあるうち半歳の後には測らずも支那事變に際會した譯である。

支那事變勃發により、再興の機を狙つてゐた内蒙古は、わが察哈爾作戦軍の西進に協力、多年の宿望だつた打倒綏遠軍閥の目的を達成した。

昭和十二年十月十五日には早くも綏遠入城を實現し、超へて同月二十七日より三日間に亘つて蒙古民族大會を綏遠城に開催した。

集るもの各盟旗代表三百餘名を數へ、察哈爾、錫林郭勒、伊克昭、烏蘭察布、巴彥塔拉の五盟及び厚和、包頭の二市を以て蒙古聯盟自治政府の組織を決議したのである。かくて湖北の高原に隠忍多年、ひたすら黨政權の羈絆を脱して、民族自治の實をあげんと努力し來つた蒙古民族は、支那事變の勃發して以來僅々百日に滿たずして、所期の目的達成の第一歩を踏み出したのであるもとよりこれには、皇軍及び前蒙古聯合自治政府の最高顧問であり、且つ「蒙疆の慈父」といはれてゐた金井章二博士ら絶大の支援があつたことを忘れてはならぬ。

× × ×

以上の如く、蒙古人は民族的自覺の下に、防共と滅黨と親日滿を新旗色として、新しき時代に望んでゐる。

その他、察南自治區に於ては、事變にともない、教育機關は全部休止の状態にあつたところ、復興と再建教育に邁進し、初等教育から順次上級教育へと完成を急いでゐる。

即ち、教員の再編成と、從來の彼等の抗日思想を清算させるため、精神訓話、建國體操、時局

國民歌等の講習を受けしめ、以て應急の對策とした。

又、教科書についても、新教育書中に、支那事變の章を加へて、事變の原因及び察南自治政府の成因を明にするなど、専ら新情勢認識による滅黨、防共の方向に指導してゐる。

晋北自治區に於ても、事變に因る一般教育機關の停止は察南と同様であつた。

けれどもその後皇軍入城後、皇軍に對する認識の徹底と治安の確立は、民心の安定を保ち、漸次復興しつゝある。

晋北百五十萬の住民は、察南百五十萬のそれと同様に、殆ど漢民族に屬するのであるから、その教育方針も亦概して察南のそれと同巧異曲といひ得やう。

□、蒙古の新舊文化

蒙古の文化の歴史的事證は、京包線の沿線に於て、よく物語られてゐる。

京包線は、北京に起り蒙疆の心臓を貫いて走り、西包頭に終つてゐる。この沿線一帯は、古く

から北方遊牧民族と南方民族との確執した所であり、兩民族の勢力消長によつて、屢々その政治歸屬をも異にしたのである。

察南も晋北の土着民も、今では漢民族と同じ様な服装をし、同じ様な言語を話してゐるが、決して純粹な漢民族とはいひ得ない。

こゝでは石器時代の古から、始終兩民族の鬭争が繰り返へされ、それと共に漢民族の文化と、西北系統の文化とが交流してゐたのである。これ等の事情は、最近に於ける考古學的調査によつて確認され、文献の傳へるところと相俟つて、いよゝ／＼明らかにされつゝある。

萬里の長城を見るがよい。これは漢民族にとつて、北方遊牧民族の侵入を防ぐ城壁であると共に、一方に於いては又、漢文化の培はれる世界を區切つた目に見える境界でもあつたわけである。漢族の勢力が旺んな時、彼等の文化はこれを越えて、朔北の彼方にまで延びたであらう。

長城はもとより、秦の始皇一人の手になつたものでもなく、又秦の時代に初めて出來たものでもない、それよりも更に古い春秋や戰國の時代から、北邊に興つた漢族の國は、絶えず北族の侵

入に苦しみ、早くから長城を築いてこれを防いだのであつた。

近世に於いて、漢族の勢力が實際に長城線以北にまで浸潤したのは、漸く清末になつてからである。北支那の農民が蒙古に出かけ、牧地の開墾を行つたのは清初に始まるが、清朝では蒙古人の牧畜生活を保護する見地から、彼等の蒙古移住と開墾とを禁止し、商業の制限をしてゐたのである。

これは清朝が入關以前から、蒙古と特に密接な關係を有し、彼等の支那化することを欲しないといふ政策をとつたからである。

然るに清末に至り、帝政露西亞の南下する勢力に耐えかねた結果、終に傳統の政策を捨て、殖民實邊の策をとり、進んで漢人を蒙地に移住させ、蒙古人保護のための制限を撤廢することを餘儀なくされた。以上の事情は前節に於いて述べたところであるが、京包線は、實にかゝる雰圍氣の中に計畫されたものであつた。

x
x
x

清末光緒三十一年（明治三十八年）着工以來徐々に延長され、民國十年（大正十年）に至つて漸く現在の包頭までの全線が完成したのであるが、その設計者である詹天佑が、人も知る八達嶺の難工事を全く獨力を以てし、外人技師の助力を受けずに爲し遂げたことは、支那に於ける近世科學の進歩を物語るものとして、中國人の誇りとしてゐるところである。

また張家口から、外蒙の庫倫に至るべき張庫鐵路の如きも、机上空論ながら計畫せられた。京包線の敷設は、民國初頭に於ける支那民族の北方發展を意味するものに外ならぬ。

しかし、現在に於て、この鐵道の有する意義は大いに異なるものがある。

日本軍が事變以來、逸早くこれを占據した理由は、この地方こそ最も重要な防共地帯をなすものであつたからである。こゝに強力な政權を確立し得なかつたならば、赤露の魔手は外蒙から忽ちにして内蒙を越え、直接中國に及ぶであらう。

東亞永遠の平和といふ大局的見地に立つて、滿洲國を保護し、支那民衆を赤化の災厄から救ふためには、蒙疆といふ特殊地域は、當然必要となつて來る。

それには先づ蒙古人の生活を安定せしめ、その地域内に於けるより多數の支那人をして、これが意義を理解せしむべきは勿論である。この蒙疆地帯の中心を貫く京包線は、かゝる意味に於て名實共に防共ルートをなすのである。

ハ、大同の石佛と莊嚴な寺院建築

遼、金の時代には大同は西京と呼ばれたが、その位置は今日の大同城と殆んど變りがないと思はれる。勿論現在の城壁そのものは明初の築造になるものである。

大同で特記すべきことは、その寺院建築である。上華嚴寺の堂々たる大雄寶殿は、從來金代の建築とする説であつたが、最近遼代説も提起されてゐる。

下華嚴寺の薄伽經藏は素晴らしい建築物であり、その中に安置された多數の塑像は、これ又當時の佛像として得難いものである。

古い木造建築の少い支那では、これだけでも大同がその方面の寶庫といふことがわかるであら

うが、この附近にはまだまだ重要な古建築が残つてをるのである。

この方面の種々の古建築は最近考古學者によつて、研究されてゐる。

大同といへば、すぐに石炭と石佛とを聯想する程に、雲崗の石佛とは縁が深い。

雲崗の石佛が今を去る約千五百年前の開鑿にかゝる北魏藝術の精華であり、世界に於ける有数の佛教藝術であることなどは、今更ら事新しく述べるまでもない。

雲崗の石佛を代表するあの大露佛は、最も早く開鑿されたものの一つであり、又最も優秀なる作品の一つでもあつて、遊牧民族であつた拓跋人の理想的な人物を、佛の姿に於て表はしたものであらう。昭和十五年秋、晋北政權の手でその土に埋もれた膝部以下が發掘された結果、雄大な全貌をあらはすこととなり、それと共にこれが最初からの露佛ではなく、やはり洞窟の中に鑿られたものであることなどが確認されたのは、特筆すべきである。

二、宗教

宗教の種類は五種ある。即ち佛教、道教、回教、キリスト教、喇嘛教である。しかして蒙疆五百萬住民のうち、九十六%の漢人によつて佛教、道教、回教、キリスト教といふ順位によつて信仰せられ、喇嘛教は専ら四%の蒙古人二十萬によつて信仰せられ、喇嘛教といへば蒙古人のみの宗教と稱しても妥當を缺かぬ。

喇嘛教 喇嘛教全體の現在の概況を見ると、喇嘛僧約十萬餘、信徒約五百五十萬、信徒の内譯は滿洲人百五十萬、蒙古人二百萬、青海二百萬であるから、全蒙古人の約一割が蒙古地帯に於ける喇嘛教徒たる蒙古人である。

特に内蒙に於ける喇嘛教僧は封建的な政治經濟的支配の有力な支柱であり、その勢力を昔ながらに維持してゐる。その特權は

一、特權階級の一員として時に王公を凌ぐ勢力を有し、王公を路坐せしめる。

二、人民から收買し、自己の領有牧場又は田莊に於ては直接人民を搾取する。
 三、一切の公務負擔は免除されてゐる。
 四、喇嘛廟一切の費用を所屬旗に負擔せしめ得る。
 蒙古人家庭では、從來、一人の相續者を残し、他の男子を盡く喇嘛僧とする習慣がある。このため、人口の五割を超ゆる多數の濫費的不生産者を作り、小數勤勞者の汗の結晶を徒消せしむるのみならず、蒙古の繁殖力を阻碍しつゝあり、喇嘛僧の弊害は内蒙古社會の一つの深刻な問題である。

回 教 回教は回々教ともいひ、又イスラム教とも呼ぶが、マホメツト教のことであることは已に常識となつてゐる。又支那人は清真教とも呼ぶ。

世界に於ける信徒三億二千四百萬のうち、アジャに於ては二億四千六百萬、更に内譯を見ると中國七千八百萬、滿洲國四百五十萬、蒙疆約十萬その他である。だから、その全體の信徒から見れば極めて小數である。

蒙 疆 の 將 來

しかしながら、西方に連なる寧夏、甘肅、青海、新疆一帶の一千二百萬の回教徒の存在を想ふとき、蒙疆政權の前途に思を走せるとき、蒙疆の回教徒と回教問題の將來は極めて重大である。

前述のごとく、蒙疆は新政府傘下の一地區であるが、しかもその特殊性に徴して政治、國防、文化、經濟等ほとんど獨立國家の體形をなしてゐる。殊にその通貨が、蒙疆銀行券によつて統一せられ、全く舊軍閥の紙幣及び舊法幣等を一掃し、蒙疆銀行券一色によつて通貨が確保されてゐることは北支、中支、南支等と大いにその趣を異にし、これが圓とリンクして、日蒙貿易の上に寄與してゐることは大なるものがある。

しかも、各種の産業は治安の確保と相俟ち、駁々として進捗し、事變前のそれと現在のそれとを對比すれば全く隔世の感がある。

人種學上より見るときは、蒙古民族はツラン民族に屬し、漢民族と全く種を異にし、精悍廉潔にして忍耐力強く、且つ責任感旺盛にして、常に蒙古民族たることを誇りとしてゐる。

これが、こゝにその希望どほりの蒙古新政府が成立し、その指導によつて彼等自らの新生活を建設しようとしてゐる。いはゞ現在の蒙古は待望久しきに及んだ輝しい曙光を迎へたのである。

勿論、政治的には南京新政府の施政方針と歩調を一にして、東亞新秩序建設に邁進するのであるが、たゞその歩き方に地域的な特殊性を有してゐるのである。

蒙古民族は、日本民族を信賴すること非常に敦く、將來日本民族との堅き提携によつて安居樂土の新天地を築かうとしてゐる。日本民族たるもの、よくこの眞狀を把握して善處すべきである。なほ、蒙古聯合自治政府の版圖は、直ちにソ聯の屬國化せる外蒙と接壤してゐるが、ソ聯がドイツとの一戦によつて敗北した結果、歐露においてはその手足を伸ばす餘地なき結果、勢ひ東亞にその手足を伸ばすべく全勢力を擧げるものと見られる。従つて、蒙疆との交渉もますます頻繁となることを覺悟しなければならぬ。善きにもせよ、悪しきにもせよ、今後の蒙疆は、ソ聯との關係を度外視してはならぬことになる。

こゝにいよ／＼東亞共榮圏の一環としての、蒙疆の重要性が加重せられてきたゆゑである。

そして、蒙疆の健全なる發展を期すためには、銳意その實力を培養することであり、蒙疆政府當局及び心ある民衆が、この認識のもとに銳意實力の培養に努力しつゝあることは、洵に心強き限りである。

中支の現況

一、中支經濟の特質

大要

中支那の經濟的性質は、一概に云へば、金融、貿易地帯として特色づけられてゐる點である。

産業、資源開發地帯といはれる北支とは、全然その様相を異にしてゐるのである。

上海を中心とする中支貿易が、毎年全支貿易の五〇%臺を下らない比率が、この間の事情を端的に物語つてゐる。

又、金融方面に於いては、上海は銀行數に於いても、全支に於て壓倒的だ。

しかも、中支金融の中樞となつてゐる浙江財閥の躍進は、北支の諸銀行を壓して事變前まで、飛躍的發展を遂げてゐた。

かくの如く中支は金融、貿易方面に絶對的な優位性を占めて、全支經濟をリードしてゐたのである。

中支は支那金融經濟の中核であつた。そして蔣介石は上海にその經濟的本據を置き、その一元的獨裁政權下に全支經濟を把握してゐた。

かくして、戦火中支に及んで、今日かつての中支經濟の機構は全然戦前とその趣きを異にするとはいへ、その經濟的特質である貿易、金融地區であることに變化はなく、たゞ全支をこの特殊

性をもつて制覇してゐた「大きさ」が小さく中支といふ經濟地帯に、殘存し活動してゐるのである。

だが、現在といへども中支經濟の全支的影響は皆無とはいへない。

上海の法幣相場は、全支に餘喘を保つ法幣に、それなりに深刻な影響を與へ、又は弱體化したとはいへ浙江財閥の動きは抗戰支那の財政に微妙な作用を及ぼさずにはおかない。

それ故、中支經濟は蔣介石が残した最も強靱な經濟地帯といはざるを得ない。

従つて中支經濟は、北支に於ける新たな建設的經濟工作といふより、如何にしてまづ中支經濟を制壓して行くかといふ點に、その重要目標が置かれる筈である。

そこに中支經濟工作の複雑さと錯雑さがあるのである。

その上、問題になるのは、諸外國との關係である。即ち國際的性格である。

諸外國權益は主として上海に集中されてゐた。英國の如きは對支投資總額十一億八千九百二十萬ドルのうちの八〇%は上海に集中されてゐる。なにかんづく揚子江沿岸を中心とする諸外國の權

益は、それら諸國の對支投資のいはゞ心臟を形成してゐたのである。

これらがわが經濟建設の途上に、大きな痛をなしてゐたことは勿論である。しかも法幣の下落によつて、華興券は國內通貨として獨力、獨自の道を歩むことゝなつた。現に、昭和十六年十月に入つて以來、法幣の慘落甚しく、これに對して軍票の昂騰と米英勢力の徹退により、もはや上海——いな中支における蔣政權の金融、經濟的餘勢は一掃されんとしてゐる。

國際情勢と中支經濟（上海經濟）

第二次世界大戰に次大東亞戰爭勃發により、中支經濟は如何なる變貌を來しつゝあるか、特に我が國との關係に於いて述べて見たいと思ふ。

上海は事變以來、中國人自身も云ふやうに「孤島」である。

その背後地の農村は、日本軍によつて抑へられてゐる。これは單に軍事的措置のみでなく、利敵物資の重慶に通ずる密輸出入ルートに流れるのを遮斷するといふ作戰上の重要な意味がある。

従つて上海は、その經濟的獨立のために、今日ではその主要食料品、工業原料を諸外國に求めその代價は工業製品——主として輕工業品の輸出によつて支拂つてゐる。

この上海の孤島的存在が、大東亞戰爭開始直前まで許容されてゐたのは、その内部の複雑な租界のためなることは云ふまでもない。

しかもその租界内部には、多くの敵性を包藏してゐたにも拘はらず、なほ上海の國際的自由性が許容されてきたのは、わが日本が今次の支那事變においては、在支の外國權益を尊重するといふ原則を固く守つてきたからに他ならない。

これなくば、軍事的勢力を全然有たぬ上海は、これまで平和と安全性を味はつてはゐられなかつたであらう。

かゝる米、英依存の上海經濟が、目まぐるしき國際情勢——第二次大戰、獨ソ戰、米國の對英援助強化など、事ごとにその物價高を益々刺戟したのは、無理もない話であつた。

そして、日本と英米の關係が緊迫することに租界不安が惹起されたのも、さうした場合には、

日本が在支の英米權益（特に租界など）に對し、從來の國際的禮讓に富んだ態度を捨て、何らかの積極的措置を講ずるであらうといふ不安が働らくからであつた。

しからば、さきの米英の日本資産凍結及び米國の支那資産凍結は、この孤島上海に對しどんな影響を及ぼしたか。

周知の通り、これら米英の凍結令が實施されると同時に、日本政府も對米英取引取締令を公布して、それは支那大陸の各現地においても適用されることになつたし、また南京政府も英米人を目的とする指定國人財産處理辦法を公布した。

これは資産凍結には資産凍結をもつて酬いる日本及び南京政府の當然な報復措置であつた。

この資産凍結の應酬の影響は、果して、上海經濟に於いて現はれた。

即ち、これらの日、米英の應酬當時の上海の爲替、商品兩市場の動向の記録が示すところによれば、その間市場が、それによつて如何に、異常に狼狽し、かつ混亂した事かゞ十分に窺はれる。英米の凍結令が發表された前後數日間は、先づこれによつて法幣の外貨轉換性が全然とは敢へ

ていはなくとも、相當の程度まで消失するのではないかといふ危惧と、さらに突きこんだところでは、これは米國のいはゆる對日經濟壓迫の前後的手段であり、これを轉機として、日米開戦となるのではないかといふ不安が流れて、英米系銀行と日本側銀行の爲替取引が全く停止されたことは勿論であるが、支那側銀行との間の取引も全く停止され、法幣の對外相場は著しく崩落した。これに反して、商品は、綿糸布を始め食油、食糧米、石炭などの生活必需品は、見る見る三割乃至五割かた昂騰した。

法幣資金が凍結され、孤島上海に物資が來なくなる日があるかも知れぬといふ不安から、換物人氣が爆發したのである。

この間、米國の支那資産凍結令の對支貿易に關する細目が發表され、米國が日本及びその他の被凍結國家を利用するに効なきものと認定した取引には、何らの制限なく爲替を供給することが判明し、爲替商品兩市場ともやゝ安定した。

「孤島」上海の危惧は、この米國の對支貿易に關する規定細目の發表によつて、一應解消した。

かのやうに思はれた。米國の對日資産凍結令も、それがすぐ日米間の戦争を意味するものでないことが明らかになつて、この恐怖と危惧の解消に役立つたのである。

兎に角、凍結令直後の市場の動搖と不安は、小康をとり戻した。

しからば、上海經濟は將來とも現狀を維持することが許されるだらうか。それに對し、大東亞戦争開始前までの一般の觀測は次のやうなものであつた。

今後米國がその本來の性格たる功利的、金利的思想を一擲し、日本との最後の對立抗爭を期すれば、必然的に大きな變化が上海經濟にも現はれることと思ふ。

即ち、米國がこの上海にある自國の權益などは問題にせず、また從來の米、支貿易關係の斷絶をも意としない場合、日米も、米國の在支權益の最も重大なるもの一つとしての租界に對しても、もつと別の態度をとらざるを得なくなるであらう。

尤も、これは誰にでも考へられる公式的な將來觀測である。

しかも米國は、わが國及び中華に對しA B C D包圍陣の音頭取をやつて、單に經濟的壓迫を加

へるのみならず、遂に武力壓迫を以つて臨み、一上海の權力の如きは問題にあらずといふが如き恫喝的態度を示すに至つた。

遂に米英は自ら上海の權益を喪ふが如き態度を益々露骨化してきた。

こゝにおいて日本の奮起となり、先づ開戦第一日において上海にある米英の軍艦が血祭りにあげられ、同時に我が軍の租界進駐となつて、米英の上海における權益は一朝にして覆り、上海の經濟界は百年にわたる舊套を剝奪され、こゝに新生上海の經濟が潑刺として新發足をしたのである。

今後の上海經濟界、否、中支の經濟界は、これを基調として動くこと必然である。

二、中支の交通

中支交通の意義

中支は地域的に見れば、支那大陸を貫流してゐる揚子江の下流にあり、大小の支流がこれに連なり、殊に下流三角地帯では、天然と人工のクリークが縦横に交錯してゐる。そしてそれは、水深く流れゆるやかなるため、船舶の航行に頗る便利である。

これがために、中支は昔より「南船北馬」といはれてゐるが如く、特に水運は非常に發達してゐる。

しかし、支那事變ではこのクリークのために、皇軍の戦闘が可なりの邪魔になつたことは人々のよく知る通りである。

由來、中支那は地味肥沃、人口稠密、水陸交通の便備はり、貿易、工業、金融の中樞地帯をな

し、いはゆる支那經濟の心臓部を形成するとともに、列國對支投資の焦點であつて、國際權益が非常に錯綜してゐた。加ふるに、この地方はその歴史と環境の支配を受け、舊國民政府の誤つた指導の下に、抗日、侮日傾向が他の地方より著しく強かつたことも否定し得ないところではあるが、かゝる重要性和特殊性をもつた中支那に於て、今次事變による戦禍はまた特に甚だしかつたのである。

その經濟機構は殆ど全く破壊され、貿易は停頓し、戦火による交通、通信その他公共事業の破壊、舊國民政府の逃亡による金融市場の混亂等によつて、中國人商民の蒙むつた災害は非常なものだつた。

特に交通の破壊状態は、甚だしく、船舶、車輛は殆んど持逃げされ、鐵道車輛の殘存使用に耐ゆるものは僅かに戦前の七%で、バスは皆無であつた。

公路の状態は悪化し、橋梁は大部分破壊され、滬杭兩鐵道の鐵橋破壊は約六千個所に及び、トンネル、軌道、枕木、レール等も相當の破壊を見、鐵道附屬建物の被害は約七〇に及ぶといふ殊

況だつた。

陸 運

江南地區の治安が恢復されるにつれ、中支交通の組織化、なかんづく鐵道の統一運轉は早くから要求されたが、遂に維新政府の手によつて、日支合辦になる華中鐵道株式會社が創立された。

これは、昭和十三年四月設立せられた中支那經濟再建の使命を以つて、その構成形態は概ね支那側から既存設備を現物出資せしめ、これに日本側の資本と技術とを注入した中支那振興會社の大半の出資（三千五百萬圓）及び當時の維新政府の出資（千萬圓）その他の出資によつて、設立せられた資本金五千萬圓の株式會社である。正しくは、華中鐵道股份有限公司と呼ぶ。

同會社は昭和十四年五月一日、軍管理鐵道中の江南に於ける約八百軒の經營を引継ぎ、江北の部分は軍管理のまゝその經營を委任された。

昭和十五年六月末現在の運營路線は

海南線（舊京滬線の上海、南京間）吳淞線（舊京滬線の上海、砲臺灣間）海杭線（上海、閘口間）蘇嘉線（蘇州、嘉興間）南寧線（舊江南線の南京、蕪湖間）津浦線（蚌埠、浦口間）及び淮南線、淮南北線。
延長合計一千百二十八軒である。

又、中支那主要都市間の長距離バス事業は、十四年六月から開始し、現在運營路線二十七線、延長實に一千三百六十三軒に達してゐる。

水 運

中國交通の中核が揚子江を中心として、四通八達した水路による水運にあることは既に述べた通りである。

この支那經濟の動脈ともいふべき揚子江の航海及び沿岸航海の實權は、久しく米英の壟斷するところとなつてゐたが、一國航海業の盛衰は國力の消長に多大の影響を及ぼす關係にあることは

勿論であつて、中國航海業の衰退は獨り中國だけの不幸に止らず、これと相提携して興亞の大業に邁進せんとする日本の最も遺憾とするところであつた。

茲に事變後の新事態に即應して、中支の水運を維持し、進んで長江と支那沿岸から米英勢力を驅逐すべく、新たに三つの船會社が設立された。

即ち、東亞海運、中華輪船會社、上海内河汽船會社である。

これらの會社の業務の目的は、それぞれの特色がある。

東亞海運は日支間と支那沿岸及び長江の開港場間の航運に當り、中華輪船は長江の開港場と開港場の間及び不開港場相互間の東亞海運の培養的勢力をなすのをその任とし、内河汽船は主にクリークの航海を行つてゐる。

東亞海運は、昭和十四年八月五日創立で資本金七千三百萬圓、東京に本社をおく日本系の會社である。

同社は郵船、商船、日清汽船その他の日本各社の支那關係航路などを統合したもので、昭和十

五年十二月現在の就航船舶は、その持ち船總隻數八十六隻、二十三萬七千總噸に達する。(中長江線は二十三隻、總噸數五萬噸)

同社が直接に中支の水運に關係してゐるのは、長江線(上海—漢口)のみであるが、これは實に中支水運の大動脈である地位を占めるものである。

中華輪船會社は昭和十五年二月二十五日に創立された日支合辦會社(中國特殊法人)で、資本金は三千萬圓である。本社は上海にあり、現在運航船は十七隻八千五百噸、航路は主として揚子江下流方面に五線を經營してゐる。

上海内河汽船は、昭和十三年七月に創立された日支合辦の中國普通法人で、本社は上海にあり資本金は二百萬圓、そのうち九十三パーセントは日本側の出資である。會社としての規模は小さいが、中支に縦横に航路網を張りめぐらし、昭和十五年度末には五十七線、三千餘キロに達してをり、運航船舶は合計一九四隻、四千五百餘噸で地方物資の運輸上に大きな役割を果してゐる。

三、航空・通信・放送

イ 航 空

大陸内は中華航空が、日支連絡は大日本航空が受持つてゐることは北支と同様である。中華航空株式會社は日支合弁で、大陸の空の交通路を一元的に運営してゐる。そのうち、中支に關するものは、

北京—上海線、南京—漢口線—上海—漢口線、上海—大連線、上海—廣東線、上海—杭州—南京線の六線で、運回航數は何れも毎日一回である。

大日本航空の日支航空路は昭和十三年十月から東京—南京間の一日連絡を見、現在毎日一往復してゐる。

ロ 郵 政

支那の郵政は元來支那海關の一部として創始され、後、郵政部として獨立したが、その幹部は海關と同じく、創立以來外人によつて占められ、多年の歴史と傳統とによつて海關と同じく一種特別の機關を形成し、事業としての團結力が強く、數次の政變に當つても超然として政治の圏外に立つて業務の運行を維持して來た。支那郵政の本來の性質が、このやうに政治的に無關心であり、殊に中支には舊國民政府の郵政部の勢力が残存し、しばしば、我が作戰諜報上の妨害となつたが結局、新國民政府が郵政を把握し、全支郵政の中心を確立せねばならない。又その方向に進みつゝある。

ハ 電 氣 通 信 會 社

戰禍のため、電氣通信(電信、電話)の設備は甚大な打撃を被つたが、その復舊は公益上のみな

らず、治安維持のためにも急を要した。依つて日本側では極力その復舊と運営につとめ過渡的な機關が設置されたが昭和十三年七月、中支那全般に亘る斯業の本格的復興と統制に當るべき日支合辦の中國特殊法人、資本金千五百萬圓の華中電氣通信株式會社が創設された。

四、中支の文化政策

1 文化は永續的施策

事變以前、中支は舊國民政權の膝下であり、従つて排日、抗日の思想の根強いことは北支、南支以上であり、現在軍占領地區にありても抗日の分子は跡を絶たないやうである。

しかも、上海は各國の權益が複雑、錯綜し、英米は大東亞戰爭勃發前まで自國の權益を利用して抗日分子を後援使喚し、實にその文化政策上においても困難を極めてゐた。

こゝに於ても、文化政策の重大性且困難性を認めざるを得なかつたのである。

思ふに、中支は支那の中にて、經濟、政治、文化方面は最も發達し、文化方面にありても、從來は英米の資本力を以て傾注したる施設、これに加ふるに、英米依存排日の思想を浸潤させ、その勢力は根強いものがあつた。

既に情勢は、東亞新秩序の坩堝に熔解されつゝあるが、これ等殘存勢力を無視して、建設事業に邁進することは危険である、

要するに、日本の百年の大計を目標に置いた漸進的の文化工作が、必要となつて來る。即ち文化は永續的であるからだ。

興亞の大業完成のために、今皇軍は聖戰をなしつゝあるが、大業を貫徹する最後の手段としての一つはこの文化工作でなければならぬ。

そして、この文化工作の目標は、あく迄も日支文化の交流でなければならぬ。

こゝで、一つ、いはゆる殘存勢力の文化施設と、新たに建設されつゝある文化施設とに就いて述べて見たいと思ふ。

言を重ねて云へば、中支の文化はこの残存勢力と新勢力との二つの過渡的現象にある。

□ 残力存勢（又は文化權益）

A キリスト教傳道權

B 學校、病院、新聞等の經營權

残存勢力——又は文化權益とは、具體的に云へば（A）キリスト教傳道權（B）學校、病院、新聞等々の經營權を指すのである。

これ等の權益は、概ね、條約に依つて得たものであるから、その意味に於て條約權益であり、更に傳道權も、學校、病院、新聞の經營權といふものも悉く建物、設備等の資産を俟つて始めて効果を期待し得るもので、その意味に於ては文化事業投資或ひは社會事業勢力に他ならない。

この種の在支文化事業は、その事業資産に於て、その毎年の投資額に於て、米國が壓倒的優勝を示してゐた。米國に次ぐのは佛國である。且つ宗教團體に據る對支文化的開拓は、米國の新教

系活動を最大とし、佛國の舊教系活動これに次ぐ状況にある。

獨逸は第一次大戦により、支那に於ける權益を悉く失つてしまつたが、最近（一九三三年以來）北京の輔仁大學（Catholic Univ. of Peking）に對する經營權を、米國新教系教會よりその手に收めたが、これは略す。

日本は條約上、佛教教義による對華進出の基礎を持つてゐない。この點に於て、キリスト教國に比し著しく不利な立場を占むるものであり、今後の進出が希望される。

過去に於て、この問題が日華間に、外交交渉の目標とされたこともあるが、遂に成功しなかつた。

表面、政治性を有しないが如く装つてゐる英米の傳道權が、如何に自國の對支政策を有利ならしめてゐたかを考へて見れば、文化權益の問題は東亞新秩序建設の將來にとり、再検討を要するものである。

日本は最近（一九三九年）上海の東亞同文書院を大學に昇格せしめたが、これ現在日本の中國に

於て維持する唯一の大學である。

とに角、歐米(特にアメリカ)の文化事業は盡く傳道と結びついてゐた。

それ程大學教育に於ける歐米人の勢力は深く喰ひ入つてゐたのである。これは支那に於ける大學の將來を考へる上に於て最も重大な問題である。

而して、支那に於ける歐米系の大學の殆んどは、プロテスタント(新教)の支配下にあり、又大學以下の學校——中等學校、專門學校、神學校は、これと對蹠的にカトリック(舊教)の支配下に置かれてゐる。

これを一言にして云へば、支那の大學の實情は外國系若しくは外國の影響下にあるものが壓倒的であつた。

この大學と豫備教育の不統一性の結果、收容する大學生の素質が千差萬別で、而も語學力は概してミツシヨンスクール出身者以外は劣悪であるのは如何ともしやうがない。

一例を示せば、獨逸文學や佛文學專攻の大學生が英譯本で、獨逸文學や佛文學を研究すると云

ふやうな喜劇は大學自體の缺陷よりも寧ろ豫備教育の缺陷に起因してゐることは勿論のことである。

この時に當り、新政權教育當事者等に望みたいことは、この亂立せる大學を大東亞的自覺に目醒めさせんがために、或ひは統制、閉鎖し、根本的な初等、中等教育を改善、統一することである。大陸より米英の勢力が一掃された現在こそ、絶好の機會ではあるまいか。

尙、外國經營文化施設をこれまでの列舉して見ると(便宜上外國教會經營の上海にある大學のみを列舉して見る)左の通りである。

米國教會經營

聖約翰大學 (St. John's Univ.)

滬江大學 (Univ. of Shanghai.)

之江文理學院 (Hangchow Christian Col.)

上海女子醫學院 (Women's Christian Medical Col.)

米 國 系

歐字新聞 China Press.

Shanghai Evening Post & Mercury.

新聞雜誌

華字新聞 大美晚報 その他(以上上海)

雜誌 教務雜誌、密勒氏評論報

醫療事業

ロックフェラー財團 (北京) 對支、醫療、保健、農村、事業
華洋義賑會 (上海) 米國系の社會事業團體

英 國

英國は、團匪賠償金(北清事變の際、各國が清政府より受けた賠償金にして、この使途を各國申合せにより、支那に於ける文化事業の費用に充てたものである)の受取額の中、若干のものを教育方面(博物館、自然科學獎勵等)に補助したが、その大半は直接對支文化事業に投ぜず、一旦之を有利なる經濟事業に投資した上、その収益を以て文化活動を支援すると云ふ主義を執つて

ゐた。この點米國の活動と全くその手段を異にする。

従つて、經營してゐる教育機關には大學は無い。

たゞ、在支英國系新聞雜誌は、その數に於て他外國に優つてをり、従つて文化的勢力には侮り難いものがある。

中支のみを上げると

新聞 Shanghai Times. (泰晤士報) (上海) Central China Post. —— (漢口)

雜誌 Finance and Commerce, Capital and Trade, Oriental Affairs,

China Journal Science and Art. (以上全部上海)

醫療事業 大英廣濟醫院(杭州)、漢口協和醫院(漢口)

佛 國

震旦大學(佛國舊教經營) (上海)

中法工學院(佛支合辦)

(上海)

徐家匯天文臺、博物館、書樓 (上海)(佛國舊教經營)

新聞 Journal de Shanghai (佛文、中立的な論調) (上海)

雜誌 ラ・シーヌ・ドスジュルユイ(親日的雜誌) (上海)

醫療設備等 佛國上海租界工部局關係一病院二院、衛生試驗所一ヶ所

以上大體であるが、支那に在る文化の殘存勢力を説明した。

これに對抗して、新政權は、新しき文化新秩序を樹立せんとしてゐるが、根強くはびこつたこれらの文化的權益を凌駕するには、まだまだ、幾多の時日と努力を要するところである。

しかし、上海にある邦字新聞「大陸新報」や「上海毎日新聞」及び華字新聞「新申報」さらに汪主席の機關紙「中華日報」等は最近これらの殘存勢力新聞を壓倒して、東亞新秩序建設のために華々しい奮闘をなし、且つ豫期以上の効果を擧げてゐることは心強い限りである。

新文化勢力

文化分野の凡てが轉換期の混沌たる過程にあるといふことは前述した通りであるが、在來の歐米依存文化に對抗して、和平建國運動の進展に伴ひ、文化面におけるその建設工作も著しく前進した。

過去一年間、日支協力による文化建設の成果は相當に上つてゐる、しかし、まだまだ小成に安んずる時ではない。

學校、出版、雜誌、新聞、演劇、映畫、民衆教化、放送事業、音樂等々の廣く文化一般に互る建設工作では、まだ最初の第一歩を踏み出したといふ程度に過ぎない。

現在、中支に於いては、全體から見れば、抗日文化が殘存してゐる部分や、破壊されたまゝ、何も残つてゐない文化的空白の部分や、新文化の基礎工事がやつと着手されたばかりだといふ部分や、これ等のものが雜然として入りみだれ、混沌たる過渡期的な文化様相を呈してゐる現状で

ある。

但しこの混沌たる文化様相の中に眞の時代文化の創造を探り、明日の支配的な文化を豫見することは可能である。

とに角、前節の殘存文化に對抗する文化政策は左の如き基調が絶対に必要である。

第一に中支（特に上海）に殘存する抗日的な重慶側文化勢力の一掃であり、第二に新國民政府と日本側との文化合作であり、第三には歐米依存文化の修正である。

今、國民政府の還都以來の文化工作に關しての事實を説明しよう。

國民政府は還都以來、文化事業にも銳意努力してゐるが、成立日淺く學校等の復舊に急であつて、維新政府時代の事業を繼續するほかに、新しい文化機關の建設は今後に期待される。

教育の面について見れば、昭和十五年十月には國立中央大學が新設され、最高學術研究と教育機關の整備に力を入れてゐる。

國立中央大學は、前述した在來の支那大學の缺陷たる豫備教育の不備を改革せんがために十五

年度は學生に専ら豫科的な學科を授け昨年度から文、法商、教育、理工、農、醫、藥の専門學科を授けてゐる。

また、十五年九月には日支文化の交流、親善のための事業を目的とする中日文化協會が設立され、昨年に入つて日文、華文の機關紙も發行されるやうになつた。

醫療、防疫については、主要都市には中央直轄病院、小都市には地方廳の經營する診療所を設けたり、また各地に防疫委員會を組織し、日本側の同仁會も協力してゐる。

學術研究機關としては、現在、上海自然科學研究所、上海日本近代科學圖書館、中支建設資料整備委員會、南京紫金山天文臺があり、各地に日語學校がある。

南支の現況

廣東

南支は、事變の進展につれて、次第にその様相を變貌してきた。

日本軍が、バイヤス灣に奇襲上陸して廣東を占領したのは、援蔣物資の遮斷と軍事的必要によるものであつたが、その後南方各地における日本軍の進出と、さらに遠く日本軍の南洋各地進出によつて、今や南支は日本の南進基地としての重要性を帯ぶにいたつた。

しかしながら、これは單に日本の膨脹發展を意味するものではなく、實に大東亞共榮圈の重要一環として價値づけられたのであつて、その地理的、産業的、文化的からみても、將來は東亞共榮圈の花形となるであらう。

そしてこの南支の中核をなすものは何といつても廣東である。由來、廣東は「南支の廣東にあ

らず支那の廣東である。いな現代支那の發祥地である」と稱され、中國革命の父といはれてゐる孫文は、實にこの廣東に據つて革命の烽火をあげたのであつた。

昭和十五年三月、汪兆銘氏を主席とする新政府が成立するや、二ヶ月後の五月には、早くも最初の改組地方政府として廣東省政府が樹立し、ついで廣東市政府が誕生して、新東亞建設への力強いスタートを切つたのである。

即ち、その第一着手として、省正規軍として省保安隊を、新支那最初の海軍として廣東海軍江防軍を設けたほか、中央軍官學校廣州分校、新政府直系國防軍、中央警官學校廣州分校、廣州市警察隊などが相ついで新設され、すでに多數の軍隊および警官を育成し、専ら廣東の自治的治安維持に當つてゐる。

このため、廣東及び附近一帯の治安は完全に確保され、これに伴つて人心の安定を得、諸産業が復活勃興したばかりでなく、風紀、衛生等についても鋭意改善をなしつつある。

現に、從來廣東名物の一つとされてゐた市内いたるところの賭博場は悉く閉鎖されその跡は立

派な飲食店となつて廣東市民を喜ばしてゐる。これはその一端を示したにすぎないが、そのほかの各面にわたつて、新生支那としての様相を具備し往年の廣東とは全く變つてきた。

廣東の經濟

日本軍が廣東に入城して以來、廣東市の主要な工場は日本側で管理してゐたが、治安の確立に伴つて電力、水道、製糖、紡績、水道、セメント、ビール、肥料、硫酸曹達、製紙の九工場の所有權を省政府並に市政府に返還した。これは、中支において日本軍が行つた管理工場を返還したと同じく、中國人に對して活氣を興へると同時に、日本軍に對する信賴を深からしめたのであつた。

その他、手工業、商業、大商店などの復活も目覺しく、昭和十六年十月中旬までには、すでに一萬二千餘戸の開業を見るにいたり、その生産高や取引高は事變前と大差なきまでになつた。

貿易も事變前に比べて大差なく、金融は昭和十五年十一月創立された廣東省銀行を中核として

堅實な歩みをたどり、通貨は軍票を主とし、法幣は次第に没落しつつある。

交通は水運の便よく、絶えず大小の船舶輻輳し、殊に水陸とも物資の通過税を撤廢して以來、民衆の福利に資するところが大きい。

文化方面では、特に學校の復活に力をそそぎ、大學、中學、小學校等ほとんど復活し、専ら和平親日による共存共榮を基調とする教育が施され頗る成績がよい。女子美術學校の生徒などは、特に日本人に親しみ深く、明朗な國際的友好を示してゐる。

ともかく、何れの觀點からするも、現在の廣東は素晴らしい活氣を呈し、且つ多望な將來性に惠まれてゐるといつてよい。

廈門、汕頭、海南島の現況

廈門

廈門は元來、經濟的に獨立出來ず、常に華僑の送金によつて、經濟を維持してゐたのである。

しかし、事變後我が占領下にある廈門にも經濟的に變貌を來してゐる。即ち、從來の華僑依存を一擲し、自給自足の政策を執り、東亞新秩序の一翼として、起つたことである。

その具體的な方法として、次の二つの計畫が實施されつゝある。

第一は、水産業の振興であつて、同地は南支那海に面して、漁業には好適の條件にありながら今までの華僑以存政策のため振はなかつたのを、今度新たに日華合辦の水産会社が創立せられ、相當な成績を擧げてゐる。將來の廈門は水産業に頗る有望である。

第二は禾山農業増産三ヶ年計畫である。

これは禾山を開墾して一大農業區を作り、理想的な農業經營施設をほどこし、主として蔬菜、甘藷、稻作、麥類、落花生、甘蔗、黃麻等の栽培、豚、鶏等の家畜、家禽の飼養業を行はうとするものである。

交通方面は廈門、鼓浪嶼島によつて形成する良港は水上交通を盛んにしてゐる。

鼓浪嶼島は各國共同租界の存在せし所であり、一時、英國を中心とせる英米佛の三國と我が方とに租界問題が起つたところである。

即ち、英國は鼓浪嶼島を本據として、三國共同の對日攻勢の陰謀を計つたのであるが、大東亞戰爭の勃發後、國際情勢の變轉と共に、今は一場の英國の惡夢と化して了つた。

また、通信方面も十五年十一月廈門電氣通信株式會社が創立され、その營業もその緒につき、放送事業も廈門放送局が盛んに活躍を續けてゐる。

なほ、廈門では主要通貨として、臺灣銀行券を使用してゐるが、その價值は軍票と同一である。廈門勸業銀行は地元金融機關としての機能を十分に發揮してゐる。

廈門を中心とする政治、經濟文化の開發については、興亞院廈門連絡部の活動によつて、一糸亂れず驚異的進展を遂げてゐる。

汕頭は南支の要港で蔣政權の特に重要視してゐたところ、廣東攻略後の汕頭は抗戰支那の唯一の支那大陸に於ける援蔣物資の輸入口であつた。わけでも英國怡和洋行の船舶出入が最も活潑であつた。こゝから種々の經路を通つて重慶に物資が送られ、また豊富に輸出物資がこゝから搬出されてゐたのである。

昭和十四年六月廿一日、我が陸海軍協力の下に敵前上陸し、遂にこゝを占領した。

汕頭は厦門廣東と共に南洋華僑の主要なる出身地であつて、出身華僑の數二百四十萬、その大部分はタイ國に出稼しその送金年一億元を下らない。

皇軍の汕頭占領は彼等華僑に對して、絶大なる影響を及ぼした。

即ち、蔣介石が彼等華僑の墳墓の地を餘りにあつけなく日本軍の手に委ねたことは、二百萬華僑の信望を失ひ一億元の送金は絶え、蔣は將來彼が大なる抗戰資力の頼みとした華僑から完全に

見離される連命にたち至つたことである。

皇軍占領後の汕頭は東亞新秩序の新たな目的の下に、廣東省東部地區の一中心地たるを失はぬ復興振りをを見せてゐる。

即ち政治的基礎として汕頭市政府が設立され、民心、經濟各方面に對し落着きを與へた。

汕頭方面の復興は、今日に至るまで、相當に進展し、商店は相續いて復業、開業し、又その中には日本商店の進出も見られる。工業は商業の復興に比して、やゝ遅れたが、次第に復興し、手工業が盛んになり、錫器と麻布製品は事變前に優る盛況を呈して居る。

そのほか陶器、織布、土酒製造、製氷、製油も復興し、マッチ、罐詰、飲料水製造等もまた復興の緒についてゐる。

この汕頭の復興振りを南洋華僑は認識し始めたのか、華僑の送金も一昨年（十五年）頃から復活し現在では毎月四百萬元乃至五百萬元に上つてゐる。

海南島

昭和十四年一月十日、わが軍の疾風迅雷的の海南島攻略は重慶政府のみならず援蔣各國に甚大なる影響を與へた。

海南島攻略は以前からの懸案であり、正に南支作戰態勢の畫龍點睛といふべく、わが南方作戰は一大威力を加へるに至つた。

海南島は廣東大陸の雷州半島と相對し、その距離僅かに十二哩、軍事上極めて重要にして、重慶側にとつては廣東、廣西兩省の保衛上絶對必要地點である。即ち支那南海の前衛として蔣介石が近年國防上極めて重要視し、各般の施設を行つて來たゞけにこれを喪失した痛手は甚大である。

また、この島の位置は香港、佛印、廣東省諸海岸等の抗戰支那の軍需品輸送路網の中にありこの島の占領は各國の援蔣政策遮斷に相當の效果をもたらした。

又、海南島には武装ジャンクが無數に活躍してゐて抗戰支那への抗戰力補充點として見逃し得

ないところであつた。

とに角、この島の把握こそ敵抗戰力の培養の阻止の一として、重要な意義を有つものである。

かくして、海南島も亦我が軍の指導の下に、政治、經濟、文化各般にわたつて、建設工作が始められてから、既に四年になる。今後の海南島の重要性は、海南島の資源開發といふ純經濟上の見地から考へらるべきである。

即ち、海南島の面積は一萬三千九百萬方哩、わが臺灣より稍々大きく、住民は二百萬餘といはれ、大部分は漢人で農業、水産業、林業を營んでゐるがいつれも原始的經營である。

これ等各種産物はほゞわが臺灣に産するものと同種であるが未だ開發の程度低く而も臺灣に勝る肥沃な土地を擁し、資源また豊富、金、銅、鐵、錫、タングステン等の礦物資源に富み、皇軍占領後に發見された田獨、石碌の二大鐵山は既に稼行をなしてゐるが、稀に見る優秀品である。またチーク、黒檀、紫檀等の建築用材、藥草としては戰時下のわが國に必要なロクワイ、ニガモド

キ、タウアヅキ等があり、キノタやアルトカルのやうな油用植物もある。

又、全島が平野といつてよい海南島はまた農業方面にも重要性をもつてゐる。米、ゴム、甘蔗、ヒマ、漆、コーヒー、落花生、黄麻、胡麻、西瓜等を産し、特に米は水稻、陸稻ともに産し、水稻は年三回の收穫がある。従つて、改良の如何に依つては、將來有望な米産地とならう。

交通方面では、まだ鐵道はないが、産業開發のために計畫は進められてゐるし、道路は島を一巡してゐて、要路間にはバスや海南島特有の幌馬車が通つてゐる。通信機關も十四年八月より、國際電氣通信株式會社が電話、電信などの營業を始め、活躍を續けてゐる。

文化方面より見た海南島は、未だ黎明期にある。

米人や佛人經營の教會、病院、學校等には一流の設備もあるが、これは一般島民に對しては、何等の貢獻もしてゐない。この方面に於ける我が方の進出が望まれる。(現在は臺灣の博愛會の醫療活動が目醒しい)

尤も、舊國民政府時代には、教育は抗日教育として、大分普及されたが、現在では建設的な教

育が盛んなり、内容も一新されてゐる。

この島の言語は島の通用語として、海口語があるほかに、廣東語、福建語、海南島語が雜然と使用されてゐる。この言語は現在の教育政策としても、重要視されてゐる。

再建民國の往く道

一、支那衰退の動因

前各項において述べたとほり、新中華民國は一切の裝備を整へて、雄々しく新國家建設へのスタートを切つた。

残された問題は、いかにしてその成立に當つて聲明した目的を貫徹するかといふことである。も少し具體的にいへば、中國再建の根本方針たる日本との善隣友好、共同防共、經濟提携の三原則に立脚した和平救國の實を擧げ、以て大東亞共榮圈の一翼となるかである。さらに東亞に於け

る強國たるのみならず、世界の強國になるかである。

これに就て述ぶるに先だち、いかにして舊中華民國が今日の衰退を來たし、いかにして今次の事變の發生を見たかについて、先づ中國人自身が冷靜且つ慎重に反省すべきである。

中國は、その歴史の古きことにおいて、版圖の廣大なることにおいてまた天産資源の豊富なることにおいて將又人口多く、而もそれが勤勉なることにおいて世界に冠絶し、正に天の時と地の利に恵まれた大國である。

曾ては、その燦爛たる文化を東西兩洋にわたつて光被したこともあり、近世にいたつては「眠れる獅子」として歐米人をして畏怖せしめてゐた。

その一大國家が、十八世紀の中葉頃から急角度に轉落したのは何故であるか。

それは、中國人自身が、なかんづくその爲政者が中國の實力を過大評價して高くとゞまるのみならず、他國の文明を排斥して己れのみ優れたりとなし、殊に科學文明の普及發達に冷膽であつた結果、日進月歩する世界の氣勢から取殘されたのであつた。

夙に、東亞侵略の野望を懷いて、虎規耽々たりし英國は、早くもこの實情を見て取り、英商に對する清國政府の阿片密輸入彈壓にかこつけて、好機乗ずべしとし一八三九年から四二年にわたる阿片戰爭を起して中國を攻め、遂に香港を割讓せしめ、さらに廣東、廈門、寧波福州、上海の五港を開かした上、二千百萬弗の償金を取つたのである。

この阿片戰爭こそ、中國最近史の序幕をなす重要な意味を有するものであつた。即ち中國はこれを契機として内外に信望を失墜したるのみならず、支那組みし易しといふ印象を與へ、「眠れる獅子」は「死せる獅子」、「愚鈍なる豚」として取扱はれるやうになつた。従つて歐米各國は次ぎ／＼に中國に對し、無理な要求をなし、應ぜざれば武力に懇へると威迫して、嫌應なしにその要求を貫徹したのである。

實に、英國こそ中國轉落の動因を作つたものであるが、しかも亦その動機の一は中國にあることを忘れてはならぬ。

二、日本を過小視せる反動

中國にもし賢人政治家があつたならば、東亞の新進國たる日本と提携して、東亞侵略に汲々たる歐米の勢力を一掃し、頽勢過程の中國を救ふべきであつたが、不幸にして中國にはかゝる賢人政治家、哲人政治家がなく、却つて日本を弱小國として輕侮し、壓迫した。

この結果、遂に日清戦争を誘發し、中國はその大敗によつて、頽勢過程の上塗りをした譯である。

中國革命の父と謂はれる孫文は、さすがに世界の大大勢に明るく、中國の復興と、東亞の安定をはかるには、どうしても日華兩國が固く提携して、東亞侵略を志す歐米に當らねばならぬと力説し、現にその實現に努力しつゝあつたが、不幸にして事未だ成らざるうちに歿し、その衣鉢を襲いだ汪精衛即ち汪兆銘らは、孫文の志を達すべく、あらゆる角度より善處した。

然るに、兵馬の權を有する蔣介石及びその一黨が事實上の中國政權の支配者となるや、中國没

落の導因を作り、尙且つ執拗に中國植民地化に専念しつゝある歐米諸國——なかんづく米國、英國、ソ聯等に歡を通じてこれと結び、これに依存し、これと對蹠的に常に中國との共存共榮をはかり、東亞の安定を企圖してゐる日本を排斥し、輕侮し、亂暴にも學校教育の指導精神を抗日排日となし、日本を陸大から驅逐しようとして計畫した。

このため、中國のいたる處において日本人に對する不祥事件の勃發を見るにいたり、日本の朝野をして切齒扼腕せしめたのであつた。

この状態を見て、蔭で喜んだのは「支那植民地」を志す歐米諸國であつた。彼等は巧妙に蔣介石及びその一黨を使喚し、煽動し、徹底的に日本勢力の大陸後退を計り、それに代つて彼等が中國の支配者とならうとしたのである。

三、支那事變は何故起つたか

歐米諸國——なかんづく英國及び、米國があくまで中國を自國の植民地化さうとするのは、現

在の世界市場としては、人口四億數千萬を有する中國が最も上得意先であるので、自國の有り餘る製品を中國市場で消化し、且つ中國の重要資源を除去つて、各種製品の原料とする經濟的要求と、さらに中國を東亞計略の據點とする政治的、軍事的要求からきてゐる。

若し、日本の勢力が東亞に儼存してゐなかつたならば、米英その他の諸國は、夙に中國を分割し、印度、アフリカ、近東、南洋諸島の如くこれをその屬領として支配してゐたことは火を見るも明かである。米英諸國が、中國に對して露骨な要求に出でず、いはゆる眞綿で首を締めるが如く、ジリ押しに侵略の手を進めてゐることは、全く日本の睨みを恐れてゐるからである。

蔣介石及びその一味といへどもこれを知らぬ道理はない。否、よく知つてゐる。しかも敢て日本を排し、日本に抗して、自ら進んで米、英の植民地化、屬領化に甘んじてゐるのは何故であるか。

それには色々の理由があるが、最大の理由は、阿片戦争以來中國は米英の力といふものを極度に過大視し、日本のごときは到底その比でないといふ風に考へてゐる。いはゆる寄らば大樹の蔭

といふ功利主義と、長い物には巻かれるといふ卑屈な氣持がそれである。

もう一つの大きな理由は、日本が最近めき／＼と國力の伸展をなし、名實共に東亞の最大強國となり、更に世に最強國の班に列してきたので、隣國としての中國は何かしら強い壓迫を感じ、このまゝ推移せば、やがて中國は日本に壓倒されるのではないかといふ嫉妬と猜疑と恐怖から、米英に頼つて、伸びる日本の勢力を阻止し、抑壓しようといふ計略から來てゐる。

更にも一つの理由としては、中國はこれまで内亂内訌が絶ゆることなく、隙さへあれば地方軍閥といへども蹶起して、中國統一の覇業を遂げようとしてゐる。古い昔はいふまでもなく、革命成功前及びその直後における中國は、さながら戰國時代のごとき内紛内争の連続であつた。

これを絶滅するためには、どうしても國民の視聽を國外に向け、若し内争を起すやうなものがあれば、國民から國好として見らるゝやうに仕向けることが得策であつた。然し、米、英、ソを世界最強の國家と過信してゐる蔣介石等は、米、英、ソ等に向つて反撃を試みる勇氣はなかつた結局、實力を過小評價してゐる日本を排撃することが一番得策だと考へた。米、英、ソといへど

も蒋介石等の肚の底を叩いてみると矢張り夷であるが、以夷征夷といひ、遠親近攻といひ、中國の傳統的政策によつて、米、英をして日本に當らしめ、自らはそのお先棒となつて、日本排撃の用を勤めたことにある。

それからまた見逃してならぬ一つの理由は、米英は十分にこの中國指導者層の氣持を洞察し、巧みにその腹中に飛びこんで、これを自家藥籠中のものにしたことである。

昭和十一年二月(民國二十五年)に、南昌で開かれた蒋介石直系の藍衣社の幹部會議では、日華關係について討議した。結果

英米の援助は期待し難きも、これらの勢力を利用して支那の統制成り、強大となるまで日本を制肘すべし。

といふ一項目が、その重要決議となつた。

これを知つた米英は、恐らく赤い舌を出して北叟笑んだであらう。

かくて米英は、事ごとに日本を侵略國として中國を嚇かし、利用する筈の米英から却つて利用

されて、遂に拔足のできぬ羽目に陥つてしまつた。嗤ふべく、また憫むべき愚だ。

四、英米の中國使噓

米、英は、日本を指して侵略國呼ばはりをするが、それは全く自己を以て他を律せんとする錯誤である。即ち米英が今日の強大をなすに至ることは侵略のためであつて、あるひは武力を以てあるひは金力を以て、あるひは宗教を以て侵略してきたことは、その歴史に炳としてゐる事實である。中國もその侵略の俎上にあがり現に着々として、經濟的侵略を受けつゝあつたではないか。

彼等が、中國を使噓して排日抗日を行はしめるのも、日本がその侵略の障碍になるので、これを大陸から閉出すためであつたのだ。

彼等は、滿洲事變を指して日本の侵略行爲だといふが、日露戰役直後、滿鐵の經營權を掌中に收めて、滿洲をその領土化さうとしたのは誰であつたか。米國ではないか。

滿洲事變は、日本が血によつて獲得した滿洲の特殊權益が、蔣介石の一味たる張學良及びこれを使喚するところの米英によつて蹂躪しようとしたので、敢然起つてそれを排除した正義の行動である。米英諸國が、無辜の民を虐殺し、無知の民を偽瞞して横領した侵略行爲とは根本的に違つてゐる。

今日、滿洲帝國四千萬の民衆が、各々その處を得て鼓腹擊壤しながら、新帝國の施政を謳歌してゐる事實と、重慶政權の勢力範圍内にある民衆の悲惨なる生活とは、何れが正義人道に則してゐるか。さらに、米英の植民地における土着人が、禽獸扱ひにされてゐる生活と比較し、何れが天の意に叶つてゐるか。

五、日本の義憤と蹶起

事實上の東亞の盟主であり、指導的立場にある日本としては、此の上さらに同種同文にして古來縁故ふかき隣邦中國が、米英の巧妙なる繰りに踊る中國の一部要人のために、中國四億數千萬

人の民衆が、知らず識らずの間に米英植民地の土人と同様の悲惨なる運命に陥ることは忍ぶ能はざるところであり、また我が國防上、經濟上より見ても、放任することはできないのである。

然しながら、日本としてはその國是たる萬邦親和の建前から、如何なる毎日排日の行爲が頻發しても、隱忍自重して平和的解決に當つてきた。阿片戦争のごときは、僅かに幾萬箱かの英商の密輸阿片を、中國官憲が海中に投じたことが導火線となつたが、日本はそれ以上の濟南事件、南京事件、成都事件のごとき大事件に遭遇しながらもこれを忍んで、悉く現地解決の方法を取つてきたのである。

けれども隱忍にも限度がある。

徒らに隱忍する時は、却つて相手を増長させ、日本組みやすしとしてますます輕侮し、その結果はさらに豫斷すべからざる不祥事件の勃發を見ることが必至である。

即ち、昭和十二年七月七日夜、北京郊外蘆溝橋畔における日本軍の夜間演習に對して不法なる發砲をなした支那軍の行爲は、日本軍人の面目と衿持を徹底的に蹂躪したものであつて、もはや

隠忍の限度を越えたものであつた。日本軍が敢然としてこれが撃碎に奮起したのは當然すぎるほど當然である。

當時、日本軍は小数の兵力だけしかなく、同地一帯に在つた支那軍に比して、數的に甚しく劣勢であつたが、しかも善謀善戦して忽ちこれを撃破するに至つたが、それでもなほ日本はこれを局地問題として解決し、あくまで事變不擴大方針を執つたのであつた。

然し、前述の如く自國の力を過大視し、日本の實力を過小評價してゐる蔣介石政権は一方米英の力を持ち、米英もまたこの好機逸すべからずとして盛んに蔣政権を煽動したため、蔣政権は日本の不擴大方針に耳を藉さず、遂に全面的衝突となつて現はれた。

蔣介石政権、即ち舊中華民國政府にも汪兆銘氏及びその同志の如き眞の愛國者があつて、全面的衝突の非なることを主張し、日華の衝突は徒らに米英ソの東亞侵略の毒牙を強化せしむるものであるから、速かに和平を提唱すべしと熱心に説いた。

然し、中國の實力を過大視し、日本の實力を過小に評價し、且つ米英ソの支援に依存してゐる

蔣介石一派はこれを峻拒したばかりでなく、ますます抗日戰の擴大に狂奔した。

これより先、即ち昭和十一年（民國二十五年）十二月、蔣介石は西安に於て張學良のために監禁され、その釋放の條件として、張學良及び張學良を支持してゐる中國共產黨主腦部に對して、對日抗戰を約束してゐる手前、この機會においてある程度の抗戰をなさねばならぬ立場にあつた。畢竟、抗日戰擴大は一面において中國共產黨に對するゼスチュアでもあつたのだ。危く銃殺されようとするところを助かつたのであるから、蔣介石としては、この位の芝居を打つのは餘儀ないことであつた。思へば哀むべき男でもある。

だが、氣の毒なのは中國四億數千萬の民衆である。たゞ一人の蔣介石の意志（他の一味は唯々諾々として蔣の意に遵ふものばかりである）によつて、無意味な戰禍の中に投込まれ、塗炭の苦しみを嘗めてゐることだ。

六、日本の實力打診誤算

蔣介石が、中華兩國の實力評價の誤算は忽ち實戰の上に現はれて、昭和十二年十二月には日本軍に首都南京を占領されて、蔣政權は漢口に遁れ、翌年十月には又日本軍の漢口占領によつて重慶に逃れた。このほか中國の軍事的、經濟的要衝は次ぎ／＼に占領され、加ふるに汪兆銘氏を主席とする眞の中國國民政府が昭和十五年三月成立するに至り、今や蔣政權は全く地方政權化するに至つた。

これと對蹠的に、南京新政府は前述の如く旭日昇天の勢を以て隆々たる躍進の一途を辿り、現に世界十數ヶ國より承認され、孫文先生の遺志を遵守して、日滿兩國との堅き提携の下に一意専心民衆の幸福と、東亞の安定に邁進してゐる。

以上述べたことが、東亞の一大悲劇たる支那事變動因の大要であるが、これによつて見れば、事變の處理はその動因となつた要素を芟除すると共に、日本人としては新政府の育成に協力する

ことが、東亞安定の基礎を固めるといふことに歸着する。

七、大東亞戦争と日・滿・華

南京新政府の發展に日本人が協力するといふことは、新政府成立の目的が、事變を處理して日本と共に新東亞を建設し、東亞共榮圈を確立するといふところにある。

このことは、既に日華基本條約及び日滿華議定書によつて明かにされてゐるが、いかに百の條約や議定書があつても各國の國民が自ら進んでその目的達成に向つて眞劍の努力を拂はなければ新東亞の建設も、東亞共榮圈の確立も實現するものではない。

要は、東亞共榮圈の軸心たる日本及び滿洲、中國の三國民が、一心同體となつて共同の目的に向つて努力することである。

それには第一にお互が信じ合はなければならぬ。あるひは一方が優越感を以て他の一方に臨んだり、あるひは一方の努力を他の一方が無視したり、あるひはその動きに對して疑念を抱いたり

するやうなことがあつてはいけない。そして、自國を愛するが如く他の一方の國をも愛せねばならぬ。この愛する心がやがて、東亞を愛することになり、東亞の繁榮を齎すことになるのである。しかも、大東亞共榮圈建設に對する米英蘭の横車はます／＼辛辣となり、遂に日本帝國の存立を危くするに至つたので、日本帝國は敢然起つて大東亞戰爭の火蓋を切つた。

すなはち、日・滿・華三國はその相手國を共同の敵として戦はねばならぬ。何故ならば、その相手國は東亞新秩序の建設と、東亞共榮圈の確立を妨害し、東亞に舊秩序を強ひ東亞民族の共榮を破壊し、進んで東亞をして相手國の支配下に置き、これに頸枷を嵌込まんとすることを「争の目的」としてゐるからである。

勿論、日本の武力と經濟力と精神力とは、相手國を撃破するに十分の自信があり、己にその緒戦において世界歴史の一大轉換を劃する大捷を擧げてゐるが、しかも本戦争は相當長期を豫想されるのであるから、戦勝の要訣は味方の和にあるといふ不朽の眞理に徴し、日・滿・華三國ますます結束を固くし、以て共同の敵に當ることが肝要である。

信する者は強く、また榮ゆ。

即ち東亞においては日・滿・華三國の同盟あり、歐洲においては日本を通じて獨伊兩國の同盟あり、これらの國家が相信じ、相扶け、相勵まして共同の敵たる米、英、蘭、蔣に當つて世界再建に猛進すれば、世界新秩序の建設は必至であり、延いて恒久的世界平和の出現を見ることも亦必至である。

この意味において、米英及びその手先に踊る重慶政権の打倒覆滅を唯一の國是とする新しき中華民國の出現は極めて意義深く、吾人は筆を措くに當つてその健かなる成長を祝し、且つその強力化を祈念して已まなう。

(終)



新中華民國

定價一圓三十錢

送料 一〇錢

昭和十七年三月一日納本
昭和十七年三月五日發行

著者 永松淺造

發行者 設樂得二

印刷者 眞保三郎

發行所 東京市神田區神保町二ノ一九
東華書房

電話九段〇五六九
振替東京一六六六八

東京市神田區淡路町二ノ九

配給元 日本出版配給株式會社

(會員番號 120133)

25883 77

法政圖第一課
33.10.21
調查立法考查局

CL
NO. 19829



Ⓢ ¥1.30